

Contents 目 次

	Message from the President	
Overview	Our Goals and Philosophy / Emblem / Brief History of UoM	04
	Organization ····	05
	Educational Strategy of the University of Miyazaki	06
27	Research Strategies of the University of Miyazaki	07
International Cooperation	Faculty of Medicine / Faculty of Engineering	80
	Faculty of Agriculture / Center for International Relations	09
Faculties and Graduate Schools		10
	Faculty of Medicine / Graduate School of Nursing Science	11
The state of the s	Faculty of Engineering / Graduate School of Engineering	
	Faculty of Agriculture / Graduate School of Agriculture	
	Faculty of Regional Innovation / Graduate School of Regional Innovation	11
O F 3	Interest a similar and Constitute and Administration and Madiaire	14
	Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Veterinary Medicine	15
	Interdisciplinary Graduate School of Agriculture and Engineering	
Centers and Institutes	Organization for Learning and Student Development	
	Organization for Promotion of Research and Industry-Academic Regional Collabo	oration
	Frontier Science Research Center	
	Center for Animal Disease Control	
	Center for Institutional Research	
	Health Care and Safety Center	
	Office of Support for Students with Disabilities	
	Information Technology Center	
	Institute for Tenure Track Promotion	17
	The Kiyohana Athena Gender Equality Promotion Office	
	Next-Generation Researcher Support Office	
	University Library	
	University of Miyazaki Hospital	
	Veterinary Teaching Hospital	
International Activities	Organization for Global Collaboration / Overseas Office	18
	Islamic Center / International Dormitories / International Alumni Association	
	Guide for International Students at UoM / Student Categories and Admissions /	20-23
	Study and Funding / Short-term Student Exchange Program /	
	Campus Life – Support for International Students	
Massage for Prospective Students	Message for Prospective Students	24-25
Data	Number of Staff and Students ·····	26
Data	Number of UoM Exchange Students / International Students	
	Academic Exchange Agreement / Student Exchange Memorandum	
	Exchange of Researchers	
	University Budget	30 31
	University Budget	30-31
Campus Maps & Access	Campus Maps ····	32
	Getting to Miyazaki ·····	33
	学長挨拶	03
柳西	大学の理念・目的(基本的な目標)/シンボルマークについて/沿革	
™女 ►		
	機構図	
		06
	宮崎大学の教育戦略	06
国際協力▶	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 ()	06 07
国際協力▶	宮崎大学の教育戦略	06 07
	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科	
	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/看護学研究科	
	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科	
	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 要 農学部/国際連携センター 教育学研究科 医学部/看護学研究科 要 工学部/工学研究科 要 農学部/農学研究科 要	
	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/看護学研究科 工学部/工学研究科 工学研究科	
	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 要 農学部/国際連携センター 教育学研究科 医学部/看護学研究科 要 工学部/工学研究科 要 農学部/農学研究科 要	
学部·大学院▶	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/看護学研究科 工学部/工学研究科 農学部/農学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科	
学部·大学院▶	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/看護学研究科 工学部/工学研究科 世域資源創成学部/地域資源創成学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科	
学部·大学院▶	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/看護学研究科 工学部/工学研究科 世域資源創成学部/地域資源創成学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 学び・学生支援機構	
学部·大学院▶	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/看護学研究科 工学部/工学研究科 世域資源創成学部/地域資源創成学研究科 世域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 学び・学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター	
学部·大学院▶	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/看護学研究科 工学部/工学研究科 農学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 学び、学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター	
学部·大学院▶	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/看護学研究科 エ学部/工学研究科 農学部/農学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 学び・学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター IRセンター	
学部·大学院▶	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/看護学研究科 エ学部/工学研究科 農学部/農学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学部が完善 医学総合研究科 学び・学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 居センター 安全衛生保健センター	
学部·大学院▶	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/重学研究科 エ学部/工学研究科 農学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 学び・学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 限センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室	
学部·大学院▶	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/置学研究科 エ学部/工学研究科 農学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 関学び・学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 限センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター	
学部·大学院▶	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/養学研究科 エ学部/工学部/共学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 学び・学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 限センター でがい学生支援室 情報基盤センター テニュアトラック推進室	
学部·大学院▶	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/看護学研究科 エ学部/工学部/世域資源創成学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 学び・学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター IRセンター ア全衛生保健センター 阿がい学生支援変 情報基盤センター デニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室	
学部·大学院▶	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/看護学研究科 工学部/工学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 学び・学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター IRセンター 安全衛生保健センター 管がい学生支援室 情報基盤センター デニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室	
学部·大学院▶	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/看護学研究科 世学部/工学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 要学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 旧センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター 障がい学生支援室 情報基盤センター 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室 附属図書館	
学部·大学院▶	宮崎大学の教育戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/看護学研究科 思学部/工学研究科 農学部/農学部/地域資源創成学研究科 農学部/農学部/世域資源創成学研究科 世域資源創成学部/地域資源創成学研究科 受学、学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 限センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター 障がい学生支援室 情報基盤センター デニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室 附属図書館 医学部附属病院	
学部·大学院▶	宮崎大学の研究戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/置学研究科 出学部/工学研究科 世域資源創成学部/地域資源創成学研究科 を学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 学び・学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 限センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター デニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室 附属図書館 医学部附属動物病院	
学部·大学院▶	宮崎大学の研究戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/置蒙学研究科 エ学部/工学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 を学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 定学世域連携推進機構 プロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 限センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター 障がい学生支援室 情報基盤センター テニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室 附属図書館 医学部附属病院 農学部附属病院	
学部·大学院▶	宮崎大学の研究戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/置学研究科 出学部/工学研究科 世域資源創成学部/地域資源創成学研究科 を学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 学び・学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 限センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター デニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室 附属図書館 医学部附属動物病院	
学部·大学院▶	宮崎大学の研究戦略 宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/置蒙学研究科 エ学部/工学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 を学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 定学世域連携推進機構 プロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 限センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター 障がい学生支援室 情報基盤センター テニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室 附属図書館 医学部附属病院 農学部附属病院	
学部·大学院▶	宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/置学研究科 エ学部/正学研究科 世域資源創成学部/地域資源創成学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 を学世域連携推進機構 プロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 限センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター 戸がい学生支援室 情報基盤センター テニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室 附属図書館 医学部附属病院 農学部附属病院 農学部附属動物病院 国際連携機構/海外オフィス イスラーム文化研究交流棟/留学生用宿舎/留学生同窓会	
学部·大学院▶ 附属施設等▶ 国際交流▶	宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/置学研究科 医学部/置学研究科 工学部/工学研究科 地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学財医学総合研究科/農学工学総合研究科 を学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター にセンター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター 時がい学生支援室 情報基盤センター テニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室 附属図書館 医学部附属病院 農学部附属病院 農学部附属病院 農学部附属病院 農学部附属病院 農学部附属病院 農学部附属病院 農学部所属病院 農学部所属病院 農学部所属病院 農学部所属病院 農学部所属病院 農学部所属病院 農学部所属病院 農学部所属病院 農学部所属の地病院 国際連携機構/海外オフィス イスラーム文化研究交流棟/留学生用宿舎/留学生同窓会 宮崎大学への留学案内/学生の区分と入学手続き/日本留学の種類/ 短期研修プログラムによる学生相互交流/キャンパスライフ~留学生支援~	
学部·大学院▶ 附属施設等▶ 国際交流▶ 留学をお考えの皆様へ▶	宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/養育学研究科 田学部/工学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 を学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 旧センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター 一デニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室 附属図書館 医学部附属病院 農学部附属病院 農学部附属病院 高際連携機構 /海外オフィス イスラーム文化研究交流棟/留学生用宿舎/留学生同窓会 宮崎大学のの留学案内/学生の区分と入学手続き/日本留学の種類/ 短期研修プログラムによる学生相互交流/キャンパスライフ〜留学生支援〜	
学部·大学院▶ 附属施設等▶ 国際交流▶ 留学をお考えの皆様へ▶	宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学研究科 医学部/国際連携センター 教育学研究科 医学部/工学研究科 農学部/農学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 学び・学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 限センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター テニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室 附属図書館 医学部附属病院 農学部附属動物病院 国際連携機構/海外オフィス イスラーム文化研究交流/学生の区分と入学手続き/日本留学の種類/ を期研修プログラムによる学生相互交流/キャンパスライフ〜留学生支援〜 留学をお考えの皆様へ(留学生メッセージ) 教職員数/学生数	
学部·大学院▶ 附属施設等▶ 国際交流▶ 国学をお考えの皆様へ▶	宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 出学部/農学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 安が・学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 限センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター 一にセンター アニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室 附属図書館 医学部附属動物病院 国際連携機構/海外オフィス イスラーム文化研究交流棟/留学生用宿舎/留学生同窓会 宮崎大学への留学案内/学生の区分と入学手続き/日本留学の種類/ 短期研修プログラムによる学生相互交流/キャンパスライフ〜留学生支援〜 留学をお考えの皆様へ(留学生オッセージ) 教職員数/学生数 協定校への派遣学生数・留学生数	
学部·大学院▶ 附属施設等▶ 国際交流▶ 国学をお考えの皆様へ▶	宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/置襲学研究科 エ学部/正学研究科 世域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 学び・学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 限センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター 一戸がい学生支援室 情報基盤センター テニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室 附属図書館 医学部附属病院 農学部附属病院 農学部附属病院 農学部附属動物病院 国際連携機構/海外オフィス イスラーム文化研究交流棟/留学生用宿舎/留学生同窓会 宮崎大学への留学案内/学生の区分と入学手続き/日本留学の種類/短期研修プログラムによる学生相互交流/キャンパスライフ〜留学生支援〜 短男をお考えの皆様へ(留学生メッセージ) 教職員数/学生数 協定校への派遣学生数・留学生数	
学部·大学院▶ 附属施設等▶ 国際交流▶ 国学をお考えの皆様へ▶	宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/直際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/工学研究科 農学研究科 農学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 学び・学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 限センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター 戸ニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室 附属図書館 医学部附属動物病院 農学部附属動物病院 国際連携機構/海外オフィス イスラーム文化研究交流棟/留学生用宿舎/留学生同窓会 宮崎大学への留学案内/学生の区分と入学手続き/日本留学の種類/ 短期研修プログラムによる学生相互交流/キャンパスライフ〜留学生支援〜 留学をお考えの皆様へ(留学生メッセージ) 教職員数/学生数 学術交流協定/学生交流覚書 研究者交流	
学部・大学院▶ 附属施設等▶ 国際交流▶ 留学をお考えの皆様へ▶ 資料▶	宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/工学研究科 工学部/工学研究科 思学部/農学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 医学世支援機構 研究・産学地域連携推進機構 プロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 限センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター デニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室 附属図書館 医学部附属病院 農学部附属動精院 国際連携機構/海外オフィス イスラーム文化研究交流棟/留学生用宿舎/留学生同窓会 宮崎大学への留学案内/学生の区分と入学手続き/日本留学の種類/ 短期研修プログラムによる学生相互交流/キャンパスライフ〜留学生支援〜 留学をお考えの皆様へ(留学生メッセージ) 教職員数/学生数 協定体への派遣学生数・留学生数 学術交流協定/学生交流覚書 研究者交流 経理状況	
学部・大学院▶ 附属施設等▶ 国際交流▶ 留学をお考えの皆様へ▶ 資料▶	宮崎大学の研究戦略 医学部/工学部 農学部/国際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/直際連携センター 教育学部/教育学研究科 医学部/工学研究科 農学研究科 農学研究科 地域資源創成学部/地域資源創成学研究科 医学獣医学総合研究科/農学工学総合研究科 学び・学生支援機構 研究・産学地域連携推進機構 フロンティア科学総合研究センター 産業動物防疫リサーチセンター 限センター 安全衛生保健センター 障がい学生支援室 情報基盤センター 戸ニュアトラック推進室 清花アテナ男女共同参画推進室 次世代研究者支援室 附属図書館 医学部附属動物病院 農学部附属動物病院 国際連携機構/海外オフィス イスラーム文化研究交流棟/留学生用宿舎/留学生同窓会 宮崎大学への留学案内/学生の区分と入学手続き/日本留学の種類/ 短期研修プログラムによる学生相互交流/キャンパスライフ〜留学生支援〜 留学をお考えの皆様へ(留学生メッセージ) 教職員数/学生数 学術交流協定/学生交流覚書 研究者交流	

Message from the President

"Look at the World, Start with the Community"

President Hiroshi Sameshima

宮崎大学長 鮫 島 浩



The University of Miyazaki (UoM) is a comprehensive national university that consists of the faculties of Education, Medicine, Engineering, Agriculture, and Regional Innovation. As the primary intellectual hub in Miyazaki prefecture, located in southwestern Japan, we view our close relationship with and significant contribution to the local community as integral to our own future as a university. At the same time, we strive to provide education and research facilities of the highest quality to our undergraduate and graduate students, while conveying our achievements in the realm of education and research to the rest of the world, starting with our global partners. At the core of these activities is our firm belief that our university has a leading role to play on both the domestic and international stage. UoM's innovative activities encompass education, research, community health care, and contribution to the local and international community.

One characteristic of those activities is our promotion of interdisciplinary research and education that spans different academic disciplines in order to build partnerships aimed at meeting the needs of our region. Examples that typify our unique approach include the establishment of the Interdisciplinary Graduate School of Agriculture and Engineering and the Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Veterinary Medicine. In addition, UoM leverages its position as a comprehensive university to pursue interdisciplinary research in many fields. In particular, an emphasis is placed on research in the fields of life science, environmental science, food science, energy science, and science in the field of symbiosis. Our belief is that such research spanning multiple disciplines makes it possible to address the complex and diverse problems of the contemporary, which in turn contributes to the building of a more sustainable society that is in harmony with the local community.

In 2021, we formulated our future vision for UoM. In so doing we raised the aim as an institute of higher learning to foster

学長挨拶

「世界を視野に 地域から始めよう」

国立大学法人宮崎大学は、教育学部、医学部、工学部、農学部、地域資源 創成学部を持つ総合大学です。日本の南西部に位置する宮崎県の地域の 知の最大拠点として、高度な教育・研究体制を提供するとともに、地域に根差 し、地域に貢献し、地域と密接に関係する運命共同体として活動し、教育・研 究成果を世界に発信しています。これらの活動の中核理念は、宮崎のことは 宮崎大学が日本一、世界一でありたい、という強い信念です。

宮崎大学は特色ある教育、研究、地域貢献、国際貢献、地域医療を展開しています。その特色の一つは、異なる学問分野を融合した独特の研究と教育を進めて地域のニーズに合った連携を築くこと、即ち、異分野融合を推進している点にあります。その典型例は、農学工学総合研究科、医学獣医学総合研究科の設置などに表れており、宮崎大学の個性とも言えます。さらに、総合大学の強みを活かして多くの分野で融合的学問を追求しています。本学が特に重点を置いている領域に、生命科学、環境科学、食の科学、エネルギー科学、共生分野の科学があります。異分野が共同して研究することで、現代の多様化し複雑化した課題に取り組んでいけると考えており、ひいては持続可能な社会を構築し、地域との共生社会を実現できると期待しています。

私たちは2021年に宮崎大学未来Visionを策定しました。そこには、高等

the sort of leaders who will be able to respond to a new society and creative innovation based on unique perspectives. It also clearly states that even with the declining birthrate and aging population, and a declining population of 18-year-olds, we will continue our efforts as a regional university to solve global and global-scale issues as indicated in the SDGs, while fostering young human resources.

However, we recognize that predicting the future, even in the short term, is difficult. Many did not envision that in 2022 the COVID-19 pandemic would last as long as it has, that Russia would invade Ukraine, or that there would be global economic problems and a food crisis. However, such times of volatility, uncertainty, complexity, and ambiguity (VUCA) shed light on the significance of universities in providing the basic, fundamental education that is the foundation of academic achievement.

Currently, the digital transformation of society through ICT and AI has created a new era in which is possible to obtain the latest information from anywhere on the planet and to advance international collaboration through online conferences. Putting in place such an environment requires a community in which people can exchange views from a variety of perspectives, spanning everything from big issues on a global scale to small initiatives that affect people's daily lives. Putting that community into practice requires the sort of mindset reflected in our university slogan: "Look at the world, start with the community." We would like to conduct research in our region of Miyazaki that can incorporate everyday issues that may seem trivial at first glance but that can lead to major changes on a global scale that contribute to social progress.

As we move forward in the years ahead, UoM will continue to be a thriving institute of higher education and research that maintains strong ties with the local community as it pursues the mission of fostering the sort of human resources who will be capable of leading their communities and being globally active.

教育機関として、新たな社会に対応し、新たな観点からイノベーションを創出し活用できるリーダーの育成を重要項目として挙げました。また、少子高齢化が進み、18歳人口が減少する中にあっても、若手人材を育成しつつ、地方の大学としてSDGsに示される地球規模、世界規模の課題を解決する努力を継続する旨を明示しました。

しかしながら、近未来であっても将来のことは予測困難な状況です。2022 年、コロナ禍がこれほど続くとは、ロシアがウクライナに侵攻するとは、世界 的な経済の問題や食糧危機が起こるとは、多くの人々は想定していませんで した。このようなVUCAの時代であるからこそ、根幹となるべき基礎・基盤教 育を提供する大学の意義は増していると言えます。

現在、ICTやAIを活用したDX化がいよいよ敷衍し、地球のどこにいても最新の情報を得られ、web会議を介して国際的連携が可能な時代が到来しています。このような環境では、「地球規模」の大きな問題から地域の日常を変える小さな取り組みまで、多面的な視点で意見交換できるコミュニティーが求められます。まさに本学のスローガン「世界を視野に 地域から始めよう」に示されていることの実践が求められています。日常の一見些細事と思われる事柄の中から世界に変革をもたらす研究に繋げる、そして社会の大きな行動変容へと導く、そのような研究も宮崎の地から発信していきたいものです。

宮崎大学はこれからも地域社会に基盤を置き、地域をリードできる人材と グローバルに動くことのできる人材を育成し、輝き続ける大学でありたいと 思います。

Our Goals and Philosophy / 大学の理念・目的(基本的な目標)

As we explore the profound truths of nature, inheriting and advancing science, culture, and craft as the fruit of human wisdom, our quest at UoM is to cultivate talented youth who will deliver answers to society's needs and our ever-changing times. It is our mission, as well, to enhance the culture and intellectual life of our region and the welfare of its citizens, in particular by creating interdisciplinary programs in the life sciences that will serve the welfare and prosperity of all humanity, fostering science to preserve the natural environment that is the origin of all life.

人類の英知の結晶としての学術・文化・技術に関する知的遺産の継承と発展、深奥な学理の探究を目指します。また、変動する時代及び社会の多様な要請に応え得る人材の育成を使命とします。更に、地域社会の学術・文化の発展と住民の福利に貢献します。特に、人類の福祉と繁栄に資する学際的な生命科学を創造するとともに、生命を育んできた地球環境の保全のための科学を志向します。

Emblem / シンボルマークについて



UoM's emblem is an artistic interpretation of the Chinese character 宮 (miya) from 宮崎 (Miyazaki). The two circles within the green field of the emblem remind students and faculty members of the merger between Miyazaki University and Miyazaki Medical College.

Together, the three white circles symbolize that the institution will grow year after year. The emblem's shape evokes the Earth, suggesting a youthful energy poised to soar upward and outward into the world. The fields of green and blue represent the natural beauty of Miyazaki, its abundant trees, clear sky, and blue ocean.

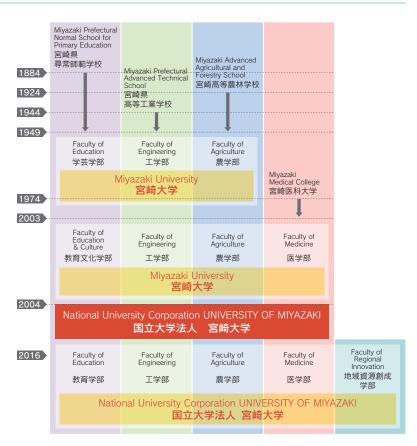
宮崎大学の頭文字「宮」をモチーフとして図案化し、さらにそれを擬人化したシンボルマークです。白い丸は、だんだん拡大される宮崎大学のイメージをあらわし、緑色の中の二つの丸は、統合した宮崎大学と宮崎医科大学を象徴するものとしてデザインしました。さらに、図形は、躍動する若人の姿と全体の円を地球としてとらえたグローバルにはばたく姿も表現しています。

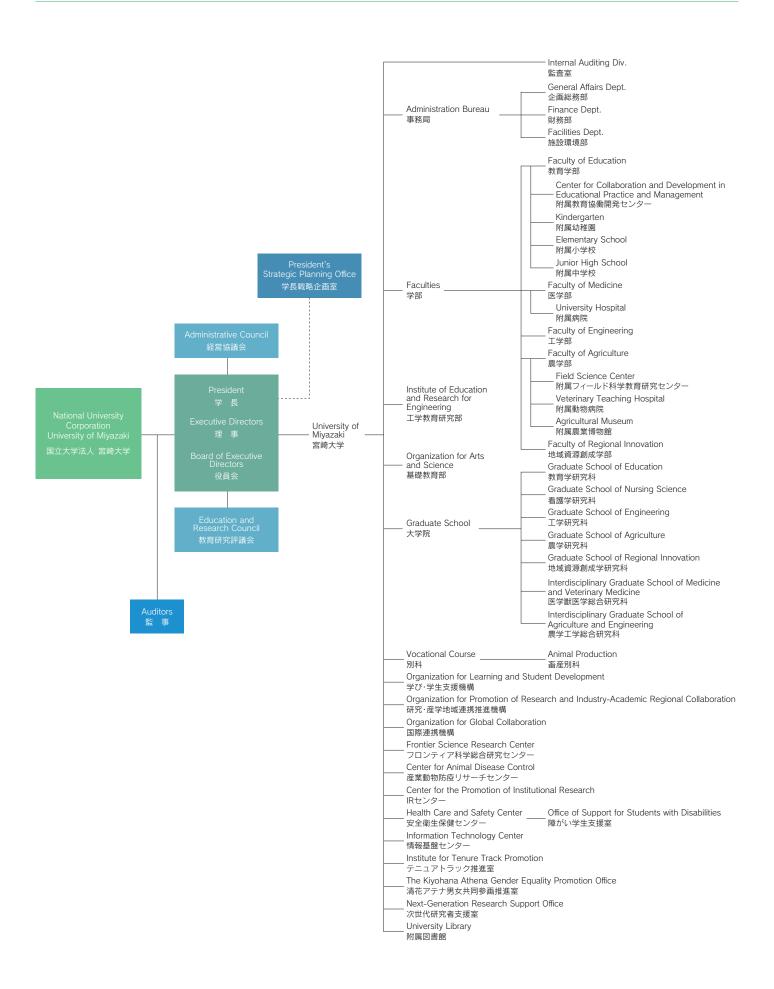
また、緑(グリーン)と青(ブルー)の2色は、自然豊かな宮崎の木々の緑と澄んだ空と海の青をイメージし、宮崎という地域にある本学のスクールカラーにふさわしい色として採用しました。

Brief History of UoM / 沿革

Miyazaki University was founded in 1949 through the merger of Miyazaki Advanced Agricultural and Forestry School, Miyazaki Prefectural Normal School for Primary Education, and the Miyazaki Prefectural Advanced Technical School. In October 2003, following the merger of Miyazaki University with Miyazaki Medical College (founded in 1974), the University of Miyazaki (UoM) was formed. In April 2004, UoM gained National University Corporation status. Currently UoM has five faculties: Education, Medicine, Engineering, Agriculture, and Regional Innovation.

宮崎大学は宮崎高等農林学校、宮崎県尋 常師範学校、宮崎県高等工業学校から1949 年に設立されました。一方、宮崎医科大学は 1974年に設立されました。2003年10月に は宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、教育 文化学部、医学部、工学部、農学部の4つの 学部からなる新宮崎大学を創設しました。 2004年4月には国立大学法人宮崎大学に なり、さらに2016年には教育文化学部が教 育学部となり、地域資源創成学部が新たに 設置されました。





Educational Strategy of the University of Miyazaki - 宮崎大学の教育戦略-

UoM Educational Policy 宮崎大学の教育方針

Educational Ideals 教育理念

Education of Humanity 人間性の教育

The University of Miyazaki (UoM) nurtures high ethical standards and a strong sense of responsibility, helps students acquire a broad and extensive education and comprehensive skills of judgment, while also fostering a rich humanity.

高い倫理性と責任感を育むとともに、幅広く深い教養と総 合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。

UoM helps students become acquainted with sciences for life and environmental conservation, and nurtures habits for on-site learning through extensive contact with nature and society.

生命や環境保全の科学に親しむとともに、広く自然や社会 に触れ、現場から学ぶ態度を育成する。

Education of Sociality and Internationality 社会性・国際性の教育

UoM fosters problem-solving ability, which can actively contribute to the growth of society in response to a wide variety of societal demands.

社会の多様な要請に対応して、社会の発展に積 極的に貢献できる課題解決能力を育成する。

UoM fosters the ability to think flexibly and logically, and to write and report in Japanese, in addition to communication skills in foreign languages

柔軟で論理的な思考力を育成するとともに、日 本語による記述・発表の能力や外国語によるコミ ュニケーション能力を育成する。

Education of Specialty 専門性の教育

UoM helps students acquire fundamental knowledge in their area of specialty and nurtures their ability to put it to practical use, and at the same time fosters students'deep interest in their area of specialty and develops their ability to pursue and solve issues and learn spontaneously.

それぞれの専門分野に関する基礎的知識を修得し、それらを応用できる能力を育成するとともに、専門分野への深い興味を育み、課題探求および解決能力、自発的に学習する能力を育成する。

UoM offers specialized education, which leads to the acquisition of new knowledge and develops comprehensive judgment.

新たな知の創造につながる専門教育を実施し、総合的判断力を育成

Based on its slogan, "Look at the world, start with the community," the University of Miyazaki is aiming to inherit and develop the scientific and cultural heritage that is the fruit of human intelligence, while also seeking to develop profound academic theory, preserve the natural environment, and creating interdisciplinary life sciences. In pursuing those aims, we have embraced educational principles that strive to foster human resources capable of responding to the diverse needs of an ever-changing society.

宮崎大学は、「世界を視野に、地域から始めよう」のスローガンのもとに、人類の英知の結晶としての学術・文化に関する知的遺産の継承と発展、深奥なる学理の探究、地球環境の保全と学際 的な生命科学の創造を目指し、変動する社会の多様な要請に応え得る人材を育成することを教育の理念として掲げています。

Educational Characteristics 教育の特色

Education at the University of Miyazaki has the following three characteristics: 宮崎大学の教育の特色は、以下の3つです。

Community-based fostering of global human resources

地域で育てるグローバルな人材

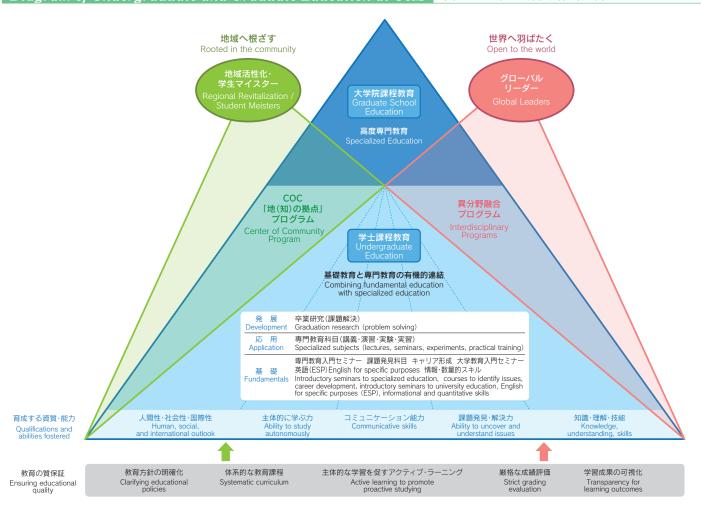
Combining different academic fields

異分野融合による教育

Academic environment that encourages autonomy

自立性を育てる学習環境の整備

$Diagram\ of\ Undergraduate\ and\ Graduate\ Education\ at\ UoM$ 本学における学士・大学院教育の概念図



Research Strategies of the University of Miyazaki - 宮崎大学の研究戦略-

UoM Research Strategies and Promotion Systems 宮崎大学の研究戦略・推進体制

Goals of Research 研究目標

UoM seeks to contribute to the sustainable development of society and humanity on the basis of results generated through creative, cutting-edge research that engages with a range of issues confronting contemporary society in fields as medicine, agriculture, and the humanities as well as in interdisciplinary

宮崎大学は、現代社会が直面する医学、農学、工学、人文 社会学等の分野の諸問題に取り組み、独創的、萌芽的、学際 的あるいは融合的研究によって得られた成果を基盤に、人 類・社会の持続的発展に寄与する。

Research Strategies 研究戦略

In order to realize the goals outlined above, UoM bases its research on life science as well as environmental science, food science, and energy science, for a total of four key research areas. This research is conducted by the UoM faculties, departments, and centers, all working in close coordination with each other. We are striving to enhance our human resources in each research area in pursuit of being a fully coordinated organization.

上記の目標を達成するために、生命科学を基盤とし、環 境・食・エネルギーを加えた4つを本学の重点研究分野と し、学部、学科及び各センターがそれぞれの枠を超えて連 携融合して研究する。また、それぞれの研究分野に関わる 人的充実を図り、全学的な組織で推進する。

UoM Research Strategies (Life Sciences, Food Sciences, Energy)

宮崎大学における研究戦略(生命・環境・食・エネルギー)

We are engaged in research to grasp organic phenomena at both the micro-level of genetics and cells as well as the macro-level of individual organisms and groups, and use the results of that research to develop translational research as well as integrated applied research that combines the fields of medicine, engineering, and agriculture, thereby making a positive contribution to humanity and society.

生命現象を遺伝子や細胞レベルでミクロな視点から、個体や集団レベルでの ー マクロ的な視点まで幅広く捉え、その基礎研究成果をトランスレーショナルリ -チや医学・工学・農学が連携した応用融合研究(福祉機器や生体材料等の 開発等)へ発展させ、その成果を人類の生存や社会の発展へ還元する。

We are contributing to sustainable environmental conservation through research activities involving a wide range of disciplines, including research at the species and genetic level on how to maintain bio-diversity; studies on persevering natural habitats in oceans and woodlands, and how to maintain the diversity of marine, forest, and mountain habitats: and research on preventing natural disasters and safeguarding environmental resources through such measures as water purification and recycling.

地球環境に関する幅広い専門領域を連結し、 生物種や遺伝子それぞれのレベルでの生物多 様性保全、海洋、森林、里地などでの生態系保 全の研究、自然災害に対する防災・減災、水資 源浄化やリサイクルなど資源環境型社会を実 現するための研究を通して、持続的な自然環 境の保全に貢献する。

Food Science 自然環境保全

We are conducting fundamental and applied research that can contribute to strengthening and expanding the overall process of handling, distributing, and selling the abundant agricultural and livestock resources of Miyazaki Prefecture, as well as research on the functionality and safety of food products, UoM is also helping to revitalize local industry and securing a sustainable supply of human and natural resources.

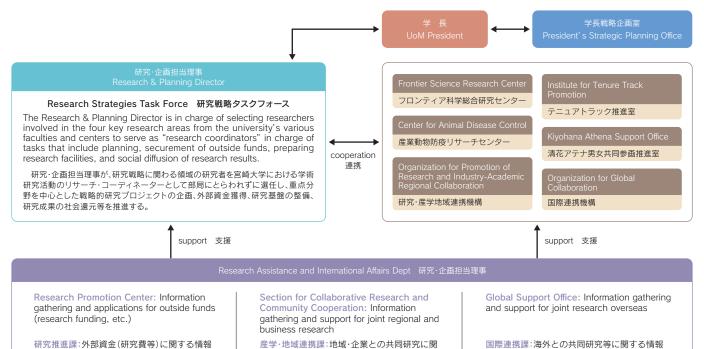
地域に優位性のある農水畜産物の生産から 加工、流通、販売に至るプロセスを強化・拡 大するための基礎・応用研究や食品の機能 性や安全性に関わる研究、あるいは産業動 物の国際的防疫に関する研究を通して、地 域産業の活性化あるいは人類の食糧資源 の持続的確保に貢献する。

We are contributing to a low-carbon, sustainable society through research that aims to expand the use of renewable energy, including such topics as the conversion, distribution, storage, and improved efficiency of solar power, biomass, and other types of renewable energy, as well as the increased use of innovative energy sources

太陽エネルギーやバイオマスなどの再生可能エネルギーの変換・流通、蓄電・ 蓄熱、省エネルギー、および革新的なエネルギー高度利用など、再生可能エネ ルギーの普及を図る研究開発を通して、持続可能な低炭素社会の実現に貢献 する。

UoM Research Promotion System 宮崎大学における研究推進体制

する情報収集・支援



Faculty of Medicine

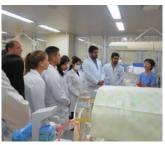
The Faculty of Medicine aims to further develop its global partnerships in order to serve not only as a community-leading healthcare specialist but also as a medical school that is open to the world.

医学部は地域の最新医療の担い手としてだけではなく、世界に開 かれた医学部として、継続的に国際協力事業を推進していくことを 目指しています。

SAKURA Science Exchange Program of the Japan Science and Technology (JST)

The Faculty of Medicine has carried out the SAKURA Science Exchange Program more than 20 times since 2014. Under this program, we have invited over 200 students, young researchers and faculty members from India, Indonesia, Mongolia, Myanmar and Peru. Program participants attend lectures and take part in hands-on experiments at UoM laboratories to acquire skills and techniques, while also visiting UoM Hospital and other facilities in Miyazaki Prefecture to observe Japanese health-care systems and management. The program offers participants a chance to learn more about Japanese science and technology and also experience the local culture. Some past participants have later returned to UoM as research students to pursue their academic careers.





医学部では2014年度からこれまでに20回以上のさくらサイエンスプログラムを実施しており、インド、インドネシア、モンゴル、ミャンマー、 ペルーから200名以上の学部生、大学院生や若手研究員、教員を受入れています。プログラム期間中、参加者は技術やテクニックを身につけるた めに宮崎大学の研究室で講義や実践的な実験の研修に参加したり、附属病院や県内の関連する施設を訪れ日本の医療システムやマネジメントに ついて学習します。また、参加者は日本の最新科学技術や宮崎の地域文化にも触れる機会も与えられます。過去の参加者のうち数名が研究者とし てのキャリアを追求するために研究留学生として宮崎大学に再来日しています。

JICA's Knowledge Co-Creation Program (Group and Region-Focused Training): "Promotion and Technical Improvement of Team Medical Care in Perinatal Care"

The Division of Maternal Nursing at the School of Nursing continues to conduct JICA's Knowledge Co-Creation Program. Under this program, we have invited medical doctors, nurses, midwives, and government officials in healthcare from various countries over the years. The participants gain a comprehensive understanding of regional cooperation and multidisciplinary teamwork in perinatal care in Japan through lectures and hands-on training. They also observe how we maintain and improve our perinatal medical care and skills at UoM hospital and other facilities in Kyusyu.

The School of Nursing has continuously offered Maternal and Child Health training since 2007 and has accepted a total of about 100 participants from more than 30 countries for its programs to date, which include the "Women's Health and Child Health Support for the Middle-Eastern Countries" and "Reinforcement of Public Administration and Community Partnership for Reproductive Health" programs.

医学部看護学科の子育て世代・子ども健康看護科学講座母性看護領域では、JICA課題別研修「周産期医 療におけるチーム医療の推進と技術向上」を継続的に実施しています。各国の医師、看護師、助産師、保健 省の行政官からなる参加者は、講義や実習に参加し、日本での周産期医療に関する地域連携・多職種連携 に関する取り組みを包括的に理解します。また、宮崎大学医学部附属病院ならびに関連施設を視察し、周 産期医療技術の向上・維持に対する取り組みを学びます。

医学部看護学科では、母子保健に関する研修を平成19年から継続して実施しており(「中東地域女性の 健康支援を含む母子保健方策」「リプロダクティブヘルスのための行政強化とコミュニティー連携」)、こ れまでに30以上の国や地域から毎年研修生を受入れています。





Faculty of Engineering

Educational programs for international students in cooperation with overseas universities and the Japan International Cooperation Agency (JICA)

In order to provide higher engineering education to Indonesian nationals and local government officials, the Graduate School of Engineering has collaborated in the Linkage Master Double Degree Program (LP) with the National Development Planning Agency of Indonesia

(BAPPENAS), the School of Architecture, Planning and Policy Development of the Institute Teknologi Bandung, and the Faculty of Engineering of the University of Gadjah Mada. As of September 2022, 49 students have earned a master's degree under the program. The educational program receives financial support from JICA. In addition, the Graduate School of Engineering launched the Master's Double Degree Program (DDP) with the University of Brawijaya in October 2010. This program was subsequently introduced in Myanmar to the University of Computer Studies, Yangon; the University of Computer Studies, Mandalay; the University of Technology, Yatanarpon

Cyber City; Yangon Technological University; the University of Yangon; the University of Mandalay; and the University of Computer Studies, Monywa; as well as in Indonesia to the University of Gadjah Mada and the University of Riau. In addition to the DDP, the Master's Degree Special Program (SP) for international students has been ongoing since 2011. Our faculty has also been accepting many students in the ABE, the PEACE, and the JDS programs within the framework of JICA's human resource development.







宫崎大学秋孝学位记授与式

Faculty of Agriculture

The Faculty of Agriculture is committed to educating and producing future leaders in scientific fields to address the global issues we face. Our faculty collaborates with other overseas universities and research institutions, starting with activities in Asia. The research networks enable students to work in an international collaborative context to enhance intellectual discovery and to acquire international communication skills. By conveying our research findings across the world, we aim to make a real contribution to global society.

Overseas office

We have established an office at Gadjah Mada University in Indonesia. This office provide advice and guidance to students and researchers who are interested in academic exchange.

PEACE and ABE initiative

UoM collaborates with the Japan International Cooperation Agency (JICA) to undertake the Project for the Promotion and Enhancement of Afghan Capacity for Effective Development (PEACE), African Business Education Initiative for Youth (ABE Initiative), Development of Core Human Resources in Agriculture Sector in Myanmar, and Pacific Leaders' Educational Assistance for Development of State (Pacific LEADS). These projects meet the need of developing human resources in the agriculture science field in Afghanistan, Africa, Myanmar, and the Pacific Islands.



Overseas activity and training

UoM has connections with other universities around the world, which allow students to improve their scientific capabilities. Various training and activities are available depending on the level of students, such as academic exchange, research discussions with other scientists, and project implementation. UoM offers an intensive English-language program involving overseas training preparation led by native speakers. When students complete their activity or training, they are required to report on their work and take part in a seminar to develop their research.



Center for International Relations

Arsenic pollution mitigation

In November 1971, an issue arose concerning health hazards among local residents due to the production of arsenic trioxide at the former Toroku Mine. The results of the examination revealed that there was environmental contamination in the Toroku area that affected the health of the residents as a result of the operation of the former Toroku Mine, and that there are health victims who appear to have chronic arsenic toxicity.

In response to the outbreak of this disease, the University of Miyazaki (UoM) has for many years been involved in the certification review board for patients with chronic arsenic poisoning, health checkups for residents, and patient support. After 1995, when arsenic contamination and symptoms of suspected chronic arsenic poisoning were reported from various parts of Asia, UoM started surveys and research activities in the following year in Bangladesh, the country most affected by arsenic contamination, with intent to implement countermeasures. In addition to Bangladesh, the Department of Dermatology of the Faculty of Medicine has also confirmed symptoms of chronic arsenic poisoning in residents of Inner Mongolia, China, and Nepal.

Leveraging the expertise gained from more than a decade of research in Bangladesh and working with NGOs, UoM subsequently conducted two arsenic contamination mitigation projects in Bahraich, Uttar Pradesh, India. The first was the two-year JICA Partnership Program, "Integrated Approach for Arsenic Pollution Mitigation in Uttar Pradesh state, India", which began in 2008. The second was the two-year JICA Partnership Program that started in 2011, "Execution of Arsenic Mitigation Project for Establishment of Government Initiative System in UP state of India".

UoM implemented "The Project for Promoting Environmental Health in Arsenic Contaminated Area in Myanmar" in Thabaung Township, Ayeyarwady Region, Myanmar, in 2015 after completing the countermeasure activities in India, aiming to improve the implementation system of sanitation and health in arsenic-contaminated areas through basic health information development and drinking water measures.

We aim to introduce the drinking water contamination countermeasures and sanitation and health implementation system modeled in this project as a government measure and to disseminate the countermeasures and the system to other areas where drinking water is contaminated. In addition, in the area of Bangladesh where it is difficult to take countermeasures, UoM are researching methods to remove high-concentration arsenic contamination. UoM will continue to work to provide safe, arsenic-free drinking water for all.



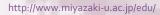






Faculty of Education

教育学部





Policy of the Faculty -学部の方針-

The Faculty of Education trains prospective teachers for elementary schools, junior high schools, kindergartens,

and special needs schools, with the aim of fostering innovative teachers capable of supporting children's growth. In line with these goals, for the courses of study listed below, we select suitable students who have deep interests in children, communities, teaching, and understanding of humanity.

教育学部では、新しい時代を切り拓き、子どもたちの成長を支え続ける ことのできる小学校・中学校・幼稚園・特別支援学校などの先生を養成し ます。したがって、各コースの教育を受けるにふさわしい基礎学力を備え るとともに、子どもや地域社会、教科の指導、人間への理解に関心の高い 人を受け入れるために、多様な入学者選抜を行います。





Faculty Departments -課程-

Teacher Training Program 学校教育課程

Unified Elementary and Junior High School Education Course

小中一貫教育コース

教職実践基礎コース

Elementary School Major

小学校主免専攻

Junior High School Major

中学校主免専攻

Teaching Profession Practice

Basic Course

Developmental Support Education Course

発達支援教育コース

Understanding Children Major

子ども理解専攻

Special Needs Education Major

特別支援教育専攻

Graduate School of Education -教育学研究科-

The Graduate School of Education at the University of Miyazaki was established for the professional development of students enrolled in the Professional Teacher Development Major course to become school teachers. Our aim is to train school leaders, mid-career teachers, as well as novices so that they can access practical and applied skills to enhance their abilities. In order to accomplish this goal, classes and course work taught by researcher and practitioner professors are offered to students, both inside and outside our campus, including the University of Miyazaki-affiliated school and participating public schools. Our curriculum fosters the professional knowledge and abilities of students so that they can solve various issues facing schools.

宮崎大学大学院教育学研究科は、教職大学院として、教職実践開発専攻を設 置しています。教職実践開発専攻は、学校教育に関する高度な理論、実践力及び 応用力を身に付けたスクールリーダーや中堅教員、力量のある新人教員を養成 することを目的としています。この目的を達成するため、研究者教員と実務家 教員との協働による授業、附属学校や連携協力校における教育実習などを通じ て、学校の諸問題を協働的に解決できる教員としての資質・能力を育成します。

Professional Degree

Professional Teacher Development Major 大学院 教職実践開発専攻

The Course for Sophistication of Teaching Profession 教職実践高度化コース

Educational Administration and School Management / Student Guidance and Counseling / Curriculum and Class Study 「教育行政·学校経営分野」/「生徒指導·教育相談分野」/「教育課程·授業研究分野」

The Course for Sophistication of Subject Education 教科領域指導力高度化コース

> The Course for Special Needs Education 特別支援教育コース

Faculty of Medicine

医学部

http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/english/





Policy of the Faculty -学部の方針-

The University of Miyazaki's Faculty of Medicine was established in October 2003 through the merger of Miyazaki University with Miyazaki Medical College, which was founded in 1974.

Our faculty aims to serve as a community pillar of education and research in the field of medicine and medical science. We are dedicated to imparting to our students the advanced medical and nursing skills needed for them to become well- rounded doctors, nurses, and researchers, while also fostering the ethical principles of placing the utmost priority on human life. In this way, we continue to strive to contribute to the welfare of society and uphold the highest professional standards.

Faculty Departments -学科-

School of Medicine

医学科

School of Nursing

看護学科

Graduate School of Nursing Science -看護学研究科-

In order to respond to the changing needs of local communities and of an increasingly complex society, while keeping pace with the ever-evolving specialization of nursing, UoM's Graduate School of Nursing Science aims to foster researchers, educators, and practitioners who can develop their potential and play an active role in the field of health and medical welfare. The graduate school comprises the Training Course for Researchers and Training Course for Advanced Practice Nurses, as well as a special course for midwife candidates preparing for the examination in Training Course for Advanced Practice Nurses.

看護学研究科は、変化する地域社会及び複雑化する社会情勢のニーズ、拡大・専門化する看護学及び看護学教育の必要性から、学部教育を基に更なる能力開発と同時に保健医療福祉の現場で広く活躍できる看護研究者・教育者・実践者・指導者を育成することを目的としています。研究者育成コース及び実践看護者育成コースの2つのコースを設置し、実践看護者育成コースには助産師免許受験資格を得るコースも設置しています。

医学部は、昭和49年に設立された宮崎医科大学を前身とし、平成 15年10月に宮崎大学と統合し、宮崎大学医学部となりました。

医学部は、「地域における医学・医療の中心的な役割を果たすと同時に、進歩した医学・看護学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔な医師、医学研究者、看護職者及び看護学研究者を育成し、国内外の医学及び看護学の水準向上と社会福祉に貢献すること」を使命としています。



Master's Course 修士課程

Master's Course for Nursing Science 看護学専攻

Training Course for Researchers 研究者育成コース

Training Course for Advanced Practice Nurses 実践看護者育成コース





Faculty of Engineering

工学部



https://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/english/index_en.html

Policy of the Faculty -学部の方針-

Faculty of Engineering aims to be a faculty that is deeply rooted in Miyazaki Prefecture while keeping a global perspective. The faculty focuses on the education of personnel who will be able to rise to new challenges with the accelerating progress of science and technology. It also emphasizes internationally acclaimed academic research, while ensuring a substantial intellectual contribution to the local community through the development of local industries. The single department with six programs had been set under the faculty after reorganization in FY2021 by maintaining our goal of fostering specialists with generic skills. This serves the purpose of developing scientific technology that can meet the challenges of the global environment in the 21st century. Further, we cultivate a high level of awareness of humanitarian issues among our students.

工学部は、"宮 時に目を向けた工学部"を目標でます。 今後ます。 展する高度な科



学技術に挑戦し、創造することができる人材の育成につとめ、国際的にも評価される質の高い学術研究活動を進めています。さらに、地域産業の発展を推進することにより、地域社会に知的な貢献をすることにつとめています。ジェネラリティーのあるスペシャリストの育成を目指して、2021年4月に工学部は1学部6つのプログラム編成に変わりました。21世紀の地球環境と共生できる科学技術の創造と、それを担う人間性豊かな人材の育成を目指します。

Department of Engineering -工学科-

Applied Chemistry Program

応用物質化学プログラム

Civil and Environmental Engineering Program

土木環境工学プログラム

Applied Physics and Engineering Program 応用物理工学プログラム

Electrical and Electronic Engineering Program

電気電子工学プログラム

Mechanical Engineering Program

機械知能工学プログラム

Information and Communication Technology Program 情報通信工学プログラム

Graduate School of Engineering -工学研究科-

The University of Miyazaki's Graduate School of Engineering is an advanced education and research institution in the field of engineering that aims to develop scientists and engineers with cutting-edge expertise and promote academic research.

Lectures in English are delivered in the international programs such as the Master Double Degree Program and the Master Degree Special Program in order to keep our professional education at a global standard.

工学研究科は、宮崎地域における高度な工学的学術の教育・研究機関として、高度で専門的な科学技術者を育成するとともに、学術研究を推進しており、多くの学生を社会に送り出しています。

また、ダブルディグリープログラムや留学生特別 プログラムを履修する外国人留学生のために英語に よる講義を開設するなど、教育の国際化を進めてい ます。

Master's Course 修士課程

Department of Engineering 工学専攻

Environmental Systems Course 環境系コース

Energy and Electronics Course エネルギー系コース

Mechanical Systems and Informatics Course 機械・情報系コース



Faculty of Agriculture

農学部

https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/english/





Policy of the Faculty -学部の方針-

The mission of agriculture in the 21st century is to overcome global food problems and environmental crises through advancing the production, development, and utilization of biological resources for maintaining a coexistence with all life on Earth. Situated in the heart of the food production base in Japan, the Faculty of Agriculture has contributed to agricultural development and aims to find solutions to issues related to food, environment, and life, while creating a peaceful and affluent local community. Along with addressing such issues common to humankind, the faculty will make further academic contributions to the development of agriculture, not only in Japan but also worldwide, particularly in Asia, Africa, and Latin America, while also fostering individual creativity.

21世紀の農学の使命は、わたしたち人類の生 存と他の生物との共存・共生を図りながら、有用 な生物資源の生産・開発・利用を促進することで、 地球規模での食料問題と環境危機を克服するこ とです。日本の食料生産基地に位置し、今日まで の農業発展に貢献してきた宮崎大学農学部は、 「食料・環境・生命問題の解決」と「平和で潤いのあ る地域社会の構築」という人類共通の目標を掲げ ています。今後、日本だけでなく、アジア、アフリ カ、中南米など世界の農業発展に向けての一層の 学術貢献と、主体性と創造性に富んだ個性豊かな 人材を輩出する責務が果たせると信じています。









Faculty Departments -学科-

Agricultural and Environmental Sciences

植物生産環境科学科

Animal and Grassland Sciences

畜産草地科学科

Marine Biology and Environmental Sciences 海洋生物環境学科

Veterinary Sciences

獣医学科

Biochemistry and Applied Biosciences 〉応用生物科学科

Forest and Environmental Sciences

森林緑地環境科学科

Graduate School of Agriculture -農学研究科-

The Previous graduate school was reorganized into the new Graduate School of Agriculture (comprising six courses) in the 2014 academic year. The objectives of the Graduate School of Agriculture are to enhance the specialized nature of the faculty's education; resolve domestic and international issues related to food, the environment, resources, and life; and contribute to the creation of a sustainable and productive society that exists in harmony with the natural environment. It also aims to develop professional technicians and researchers from many different countries who possess sophisticated knowledge in the field of agriculture and the ability to put this expertise to practical use.



大学院は、2014年度に新しい農学研究科(6コースからなる)に 再編されました。農学研究科の目的は、教員の教育の専門性を高め ることです。食料、環境、資源、生活に関する国内および国際的な問 題を解決し、そして、自然環境と調和して存在する持続可能な生産 的な社会の創造に貢献します。また、農業分野における高度な知識 と、この専門知識を実用化する能力を備えた多くの異なる国の専 門技術者と研究者を育成することも目指しています。

Master's Course 修士課程

Graduate School of Agriculture 農学専攻

Course of Agricultural and **Environmental Sciences** 植物生産環境科学コース

Course of Forest and **Environmental Sciences** 森林緑地環境科学コース

Course of Biochemistry and **Applied Biosciences** 応用生物科学コース

Course of Marine Biology and **Environmental Sciences** 海洋生物環境科学コース

Course of Animal and **Grassland Sciences** 畜産草地科学コース

International Course of Agriculture* 農学国際コース

XIn principle, each course curriculis conducted entirely in English 原則全て英語で実施



Faculty of Regional Innovation

地域資源創成学部



http://www.miyazaki-u.ac.jp/atrium/

Policy of the Faculty -学部の方針-

The Faculty of Regional Innovation has generated high expectations for its objective of contributing to regional and industrial development on the basis of the natural and social resources as well as the accumulated knowledge and expertise of the University of Miyazaki.

The educational approach of the faculty emphasizes the need to gain management knowledge and skills. Students learn subjects with a strong emphasis on management, while acquiring basic knowledge in a range of academic disciplines needed to understand local resources and tackle regional problems related to the social sciences, agriculture, and engineering. On the basis of this approach, the faculty aims to cultivate students to become regional innovators able to comprehensively manage sustainable regional development through addressing socio-economic problems (e.g., population decline and stagnant regional economies) and to create innovative value within the regional industrial and business setting through recognizing and utilizing the available local resources.

地域資源創成学部(略称「地域学部」)には、宮崎大学の強みや今まで積み上げてきた知見及び専門性を踏まえ、地域および産業づくりを担っていくことができる人材養成について強い期待が寄せられています。

地域学部は、マネジメントの知識・技能を得る教育アプローチを重視します。学生は、マネジメント力を強化する科目を学びますが、その際、地域に存在する課題に密接に関係する社会・人文科学、および農学・工学分野を含む多角的な領域の基礎知識も習得します。このアプローチをもって、地域学部は、社会経済的課題(例えば人口減少や地域社会経済の衰退)を解決しつつ持続可能な地域づくりを包括的にマネジメントでき、地域資源を理解し利活用しつつ地域産業やビジネス上において、革新的な価値を創出できる地域創成人材を輩出することを目的とします。

Course - コース-

Business Management Course

企業マネジメントコース

Regional Management and Development Course

地域創造コース

Regional Industry Creation Course

地域産業創出コース



Graduate School of Regional Innovation -地域資源創成学研究科-

The Graduate School of Regional Innovation promotes advanced educational research comprising three areas: regional studies, theories of regional resources, and theories of regional-resource utilization. The school aims to generate new creative value from advanced utilization of the various resources that exist in the region. In addition, through this value creation, the aim is to foster highly skilled human resources capable of promoting and realizing the formation of strong and sustainable local communities that can respond to future changes in the socio-economic environment, such as the trends toward declining populations, increasing centenarians, and a more decentralized society.

地域資源創成学研究科は、地域学、地域資源論、地域資源 利活用論の3つの領域で構成される高度な教育研究を推進 し、地域に賦存する多様な地域資源の高度な利活用から新 しい創造的価値の創出を目指します。さらに、こうした価値 創出を通じて、人口減少社会、人生100年時代、地方分権社 会等の今後の社会経済環境の変化に対応可能な強靭で持続 可能な地域社会の形成を推進・実現することが可能な高度 人材の育成を図ることを目的としています。

Master's Course 修士課程

Department of Regional Innovation 地域資源創成学専攻



Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Veterinary Medicine

医学獣医学総合研究科

http://www.miyazaki-u.ac.jp/ijudaigakuin/en_index.html



The Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Veterinary Medicine is committed to contributing to the development of life science and the improvement of social welfare. We offer a doctoral course aiming to produce highly specialized professional doctors, veterinarians, researchers, and educators in all disciplines. The graduate school also offers a Master's course aiming to train medical technicians who engage in advanced medical treatment, research, and education in medicine, veterinary medicine and medical sociology.

医学獣医学総合研究科では、高度専門職業人としての医師、獣医師及び研究者・教育者の養成を主眼とした博士課程と、医学・獣医学分野及び医療社会学分野の研究と教育において高度な診療支援に携われる人材の養成を主眼とした修士課程を設置し、生命科学の発展と社会の福祉の向上に寄与することを使命としています。

Doctoral Course 修士課程

Medicine and Veterinary Medicine 医学獣医学専攻

Training Course for Physicians with Professional Skills 高度臨床医育成コース

Training Course for Veterinarians with Professional Skills 高度獣医師育成コース

Training Course for Researchers of Medical and Veterinary Science 研究者育成コース

Master's Course 修士課程

Medical and Veterinary Sciences 医科学獣医科学専攻

Training Course for Researchers of Life Science 生命科学研究者育成コース

Training Course for Healthcare and Service Innovation Professionals 高度医療関連技師・サービスイノベーション人材養成コース

Training Course for Bioethics Coordinator 生命倫理コーディネーターコース

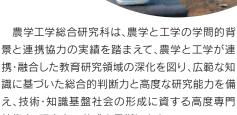
Interdisciplinary Graduate School of Agriculture and Engineering

農学工学総合研究科

 $http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/agr_eng/english/index.html\\$



The Interdisciplinary Graduate School of Agriculture and Engineering is founded on the disciplines of agriculture and engineering and their collaborative achievements. By preparing students with an integrated comprehension grounded in comprehensive knowledge and a capacity for high-level research, we are working to deepen the field of collaborative agricultural engineering education and research and meet the demand for advanced technical specialists or researchers who will contribute to a society built on knowledge and technology.



Doctoral Course 修士課程

Department of Environment and Resource Sciences 資源環境科学専攻

Department of Applied Biological Science 生物機能応用科学専攻

Department of Materials and Informatics 物質·情報工学専攻 Course of Environmentally Harmonized Technology and Science

環境共生科学教育コース

Course of Sustainable Agricultural Technology and Science 持続生産科学教育コース

Course of Bioscience and Biotechnology 生命機能科学教育コース

Course of Marine Biological Science 水域生物科学教育コース

Course of Advanced Materials and Energy 新材料エネルギー工学教育コース

Course of Production Technology 生産工学教育コース

Course of Computer Science and Bio-informatics 数理情報工学教育コース



Organization for Learning and Student Development 学び・学生支援機構

The purpose of the organization is to promote the following enterprises in cooperation with the undergraduate and graduate departmental organizations:teaching and learning management, enrollment management, community learning planning, and career development support, which are designed to encourage student learning and life.

Through these efforts, the organization helps students in discovering social problems, acquiring the knowledge and skills for the problem solving, and working with the local community.

In this way, the organization plays an active role in providing students with excellent learning experiences and ensuring the quality of education of the university.

学部及び大学院等の各教育プログラムと連携した教学マネジメント及び入学者選抜を通して、教育の質を保証し、学修者自身が課題を見出し、解決に必要となる知識や技能等を求める学びを支援し、また、高等教育機関や産業界等の地域と共働することで、多様で豊かな学びを経験できる機会を



企画及び運営することを目的とする。さらに、本学学生が安心して 学修できるよう、就職及び進学を含む学生生活全般を支援する。

Organization for Promotion of Research and Industry-Academic Regional Collaboration 研究·產学地域連携推進機構

Organization for Promotion of Research and Industry-Academic Regional Collaboration, supports research activities under the basic principle and policy of our university.

In addition, we will promote and support industry-university cooperation with domestic and overseas institutions and companies, utilize research results, which promote social return to contribute to the development of local communities and industries.

研究・産学地域連携推進機構は、本学における理念、基本方 針等に基づいて、研究の活性化及び高度化に係る施策に企 画、実施、研究活動の支援等を行います。

また、国内外の機関や企業等との産学連携事業の推進、支援並びに研究成果の活用、社会還元を進め地域社会や産業の振興に寄与することを推進します。

Frontier Science Research Center フロンティア科学総合研究センター

The Frontier Science Research Center (FSRC) comprises the Department of Bioactive Peptides, the Department of Infectious Diseases and Immunity, the Department of Biotechnology, and the Department of Projects Research. The Department of Biotechnology has four divisions: Bio-Resources, Genetic Resources, Molecular Biology and Analytical Science, and RI Research. FSRC offers broad support for education and research activities at the University of Miyazaki and also promotes advanced life science research in the fields of bioactive peptides and infectious diseases.

フロンティア科学総合研究センターは、「生理活性物質研究部門」、「感染症免疫研究部門」、「実験支援部門」及び「プロジェクト研究部門」の4部門で構成されます。本センターは生理活性ペプチドの探索と機能解明やゲノム情報を基盤とした感染症や免疫の研究など、宮崎大学における先端的な生命科学研究を推進するとともに、生物資源、遺伝資源、分子形態・機能



解析、RIの4分野から構成される実験支援部門、およびプロジェクト研究部門を通じて、学内の教育・研究活動に対する幅広い支援を行っています。

Center for Animal Disease Control 産業動物防疫リサーチセンター



The mission of the Center for Animal Disease Control (CADIC) is to tackle existing problems of transboundary and zoonotic livestock diseases and the threats likely to impact livestock industries, based on cutting-edge technology and evidence-based strategy. CADIC also aims to contribute to a sustainable society by educating future generations of researchers, livestock farmers, and people involved in the food industry.

産業動物防疫リサーチセンターでは、産業動物感染症を中心に、動物・人に関連する 感染症の制御につながる研究を推進すると ともに、産業動物防疫に関する国際教育・研 究拠点の形成を目指して活動しています。

More specifically, CADIC aims to develop the following: 活動内容

- 1. Countermeasures to prevent emerging and transboundary infections
- 2. Epidemiological methods, disease control, investigation, and eradication
- 3. New diagnostic procedures for emerging animal infectious diseases
- 4. International education programs
- 5. A sustainable livestock industry

新興感染症および越境性感染症に対する防疫戦略の策定

疫学手法、感染症制御に関する開発研究

重要な家畜伝染病の新たな診断法開発に関する先端的研究

産業動物防疫に関するグローバル人材育成教育プログラムの開発

家畜生産基盤の強化に基づく持続的産業動物生産戦略の策定

Center for Institutional Research IRセンター

The Center for Institutional Research is a university organization whose aims are to collect information on education, research, and university administration at the University of Miyazaki in a form that is easy to use, and to support strategies and decision making for the university's targets, plans, and operating policies.

From a diverse perspective, the center provides many services to actively support the education, research, and social contribution activities of the University of Miyazaki, including analyzing university affairs and the job-seeking activities of students and improving follow-up systems, as well as collecting and analyzing data on the teaching capabilities and research performance of academic staff to use for policy development to enhance the university's social contribution.

IRセンターは、宮崎大学における教育・研究・大学経営等に 関する情報を利用しやすい形で蓄積し、それらを的確かつ適 切に整理・分析して大学構成員に提供し、大学の目標・計画、 運営方針の策定及び意思決定を支援することを目的に設置 された組織です。

宮崎大学学生の学務・就職等の情報を分析して、学生のフォローアップ体制を改善したり、宮崎大学教員の教育力・研究力に関する情報を蓄積・分析して、社会貢献のための方策策定に利用するなど、様々な視点から宮崎大学の教育・研究・社会貢献活動を活発にするための業務を行っています。

Health Care and Safety Center 安全衛生保健センター

The Health Care and Safety Center provides first-aid treatment for injuries and illnesses, as well as giving advice on lifestyle-related diseases and offering counseling for mental problems. It also engages in safety awareness activities for prevention of accidents during experiments, research, and other work, and formulates various safety manuals.

安全衛生保健センターは、急病やけがの応急処置 をはじめ、生活習慣病に対するアドバイスや心理・精 神的な問題に対するカウンセリング等を行っていま す。また、実験・研究中や作業中の事故を防止するた めの啓発活動や各種安全マニュアルの策定等も行っ ています。



Office of Support for Students with Disabilities 障がい学生支援室

The Office of Support for Students with Disabilities provides the individual support necessary for each student with a disability in collaboration with the teaching staff of the relevant faculty.

Also, it liaises with and coordinates activities among the supporting staff, faculty administrators, and course lecturers in order to support students with disabilities in their studies and to facilitate their student lives.

障がい学生支援室では、障がいのある学生一人ひとりに必要な支援を、所属学部の教員等と一緒に考え、提供しています。また、障がいのある学生への修学・学生生活支援が円滑に行われるように、サポートスタッフ、学部担当者、授業担当教員等との連携やコーディネイトの役割を担います。



Information Technology Center 情報基盤センター

The Information Technology Center has the following functions.

- 1. To plan, implement, and check ICT policy
- 3. To support users of ICT systems
- 2. To improve and maintain an ICT infrastructure
- 4. To enhance ICT security

The Information Technology Center ensures that a safe and comfortable education and research environment is provided to students and faculty at the University of Miyazaki.

情報基盤センターは、大学全体の情報施策の立案・策定、点検・検証及び情報基盤の整備、運用管理を行うとともに、情報利用者の支援と情報セキュリティの向上を目指します。



Institute for Tenure Track Promotion テニュアトラック推進室

Our institute helps young principal investigators to work in their research areas. They will be leading researchers when they succeed to be a tenure position. The program is conducted under our president's strong leadership, and tenure-track staff members belong to the ITTP, an independent organization in the university.

テニュアトラック推進室は、将来学部等で大いに活躍できる若い教育者および研究者を5年間のテニュアトラック期間を通じて育てるために、全学的に設置された組織です。

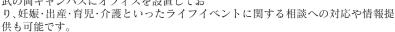
学長の強いリーダーシップのもとコーディネーターやトロイカサポーターなどの協力を頂き、学部等との連携を保ちつつも、自立した環境下で研究を遂行することができる環境を作っています。



The Kiyohana Athena Gender Equality Promotion Office 清花アテナ男女共同参画推進室

The Kiyohana Athena Gender Equality Promotion Office engages in multifaceted efforts to aid in managing work-life balance and to close the gender gap for all faculty, staff, and students at the university. The office is also involved in events for female high school students in the prefecture to aid them in selecting science-related careers, as well as in diversity promotion projects within communities in cooperation with local governments and other organizations. With offices on both the Kibana and Kiyotake Campuses, we are able to provide consultation services and information on life events such as pregnancy, childbirth, childcare, and nursing care.

清花アテナ男女共同参画推進室は、本学に在籍する教職員・学生のワーク・ライフ・マネジメント実現やジェンダーギャップ解消へ向けて多角的な取り組みを行っています。また、県内の女子高校生を対象とした理系進路選択を支援するイベントや、自治体等と連携した地域におけるダイバーシティ推進事業等にも取り組んでいます。木花・清武の両キャンパスにオフィスを設置してお





Next-Generation Researcher Support Office 次世代研究者支援室

https://www.miyazaki-u.ac.jp/jisedai/en/

The Next-Generation Researcher Support Office offers excellent doctoral students with a research incentive grant (180,000 yen per month) and research funding (400,000 to 700,000 yen per year) to provide an environment where they can devote themselves to academic research. And the Office cultivates and supports them to be next-generation researchers who have developed transferable skills (highly versatile skills that can be used across occupations, regions and industries) and the ability to succeed even in a difficult environment.

次世代研究者支援室は、優秀な博士後期課程学生に対し、研究奨励費(月額18万円)及び研究費(年額40~70万円)を支給することにより、学術研究に専念できる環境を提供し、トランスファラブルスキル(職種・地域・業界を超えて活用できる汎用性の高いスキル)と厳しい環境下でも負けない強さを身につけた次世代研究者を育成・支援しています。



University Library 附属図書館

http://opac.lib.miyazaki-u.ac.jp/?lang=english
附属図書館は、本館 (木花キャンパス) と医学

The University Library comprises the Main Library at the Kibana Campus and the Medical Branch Library at the Kiyotake Medical Campus. Their combined collection numbers around 630,000 books. Recently, the University Library has improved its information service system, including electronic journals and an online academic repository.

附属図書館は、本館(木花キャンパス)と医学 分館(清武キャンパス)から構成されています。 附属図書館は長年にわたって、蔵書(約63万冊) を蓄積するとともに、近年はインターネットを 介しての電子ジャーナルや学術情報リポジト リによる情報提供体制を整えています。



University of Miyazaki Hospital 医学部附属病院

http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/hospital/for-foreigners/

The 632-bed hospital of the Faculty of Medicine, established in 1977, is the primary regional medical center of Miyazaki Prefecture. In 1994, the hospital was designated an advanced treatment hospital, and in 2008 it was recognized as the prefecture's main hospital for cancer treatment. In 2012, the emergency and critical care center was established along with the commencement of an air ambulance service, thereby providing the latest advanced treatment.

The University of Miyazaki Hospital has been the designated administrator for managing and operating Miyazaki City TANO Hospital. In this role, we provide community-based medical care and educational programs focusing on family medicine (including primary care) and community health.

医学部附属病院は、1977年に開設され、総病床数632を有する宮崎県における中核的医療機関です。1994年には特定機能病院の指定、2008年には都道府県がん診療連携拠点病院の認定を受け、2012年には救命救急センターの設置及びド



クターへリの運航を開始し、最新の高度な医療を提供しています。 また、宮崎市田野病院の指定管理者として管理・運営を担っており、地域に密着した医療の提供とともに、総合診療や地域医療等における教育プログラムを実践しています。

Veterinary Teaching Hospital 農学部附属動物病院

The Veterinary Teaching Hospital was established in 1953 with the aim of promoting clinical practice, education and research of veterinary medicine. Since then, the hospital has contributed much to the realization of that purpose. The hospital was expanded and strengthened by the addition of modern facilities such as ultrasound and X-ray equipment for small and large animals, etc., in order to meet the increased demands for current research development and advanced veterinary care.

農学部附属動物病院は、獣医学の臨床、教育、研究に資する目的で、1953年に開設され、以来、その目的に沿って様々な貢献を果たしてきました。1985年には、新しいキャンパスに移転し、現代のニーズに応じるため大動物・小動物対応の超音波検査装置、X線CTなどの新しい設備を導入し、最新の獣医診療を行っています。

Organization for Global Collaboration / 国際連携機構

Center for International Relations 国際連携センター

Following the motto, "Look at the World, Start with the Community," UoM focuses on four international projects:

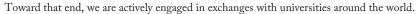
- 1. Academic research exchange
- 2. Student exchange
- 3. International cooperation for developing countries
- 4. Supporting the internationalization of the local community

学術交流(研究者交流)

学生交流

国際協力(途上国支援)

地域の国際化への貢献

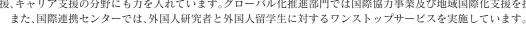


The Center for International Relations, in charge of international projects at UoM consists of three sections: International Partnerships, International Student Support, and Globalization. The International Partnerships Section is in charge of academic research and educational cooperation support and conclusion of exchange agreements with overseas universities. International Student Support Section is mainly in charge of development of international student exchange program, life and study support, and in cooperation with the Organization for Learning and Student Development, the Section also forcuses on providing study and carrer support for international students.

宮崎大学は「世界を視野に地域から始めよう」のスローガンのもと、国際事業として4つの柱を据 え、世界各国の大学等と活発な交流を展開しています。

宮崎大学の国際事業を担当する国際連携センターは「国際連携部門」、「留学生支援部門」と「グロ ーバル化推進部門」から成り、国際連携部門では外国の大学等との学術研究・教育連携支援及び交流

協定締結を担当しています。留学生支援部門では主に留学生プログラム開発、生活指導分野担当し、学び・学生支援機構と協働して留学生の就学支 援、キャリア支援の分野にも力を入れています。グローバル化推進部門では国際協力事業及び地域国際化支援を担当しています。



Center for Language and Cultural Studies 多言語多文化教育研究センター





The purpose of the Center for Language and Cultural Studies is to promote education based research on a variety of languages and cultures to foster internationally-minded citizens. The Center aims to contribute to the development of a globalized society. By collaborating with other faculties and departments, the Center provides extra-curricular activities including language learning, cross-cultural understanding, and language proficiency test preparation for both students and faculty members. The Center also facilitates Japanese education for international students in order to support their study and life in Japan.

多言語多文化教育研究センターは、各国の言語や文化に関する研究に基づく 教育を推進し、国際性豊かな人材を育成するとともに、その成果を還元するこ とにより社会の発展に寄与することを目的としています。関係部局と連携して 専門分野を含めた多言語多文化に関する様々なプログラムを企画・実施し、学 生・教職員を対象に課外語学プログラムの開講、資格試験や留学・研修に向けた 語学学習の指導、異文化理解を促す取り組み等を積極的に行っています。外国 人留学生の学習や生活を支える日本語教育にも力を入れています。

Overseas Offices / 海外オフィス

UoM has five overseas offices that support academic and student exchanges.

宮崎大学は下記の海外拠点を設置し、本学と各大学との 学術交流・学生交流を積極的に支援しています。







- B-JET Bangladesh Office (North South University, Bangladesh) バングラデシュオフィス(ノースサウス大学内(バングラデシュ))
- 2 Hanoi Office (Vietnam National University of Agriculture, Vietnam) ハノイオフィス(ベトナム国立農業大学内(ベトナム))
- 3 Yangon Office (University of Computer Studies, Yangon, Myanmar) ヤンゴンオフィス(ヤンゴンコンピュータ大学内(ミャンマー))
- 4 Yogyakarta office (Gadjah Mada University, Indonesia) ジョグジャカルタオフィス(ガジャマダ大学内(インドネシア))
- Malang Office (University of Brawijaya, Indonesia) マランオフィス(ブラウィジャヤ大学内(インドネシア))

$m{Islamic}$ $m{Center}$ / イスラーム文化研究交流棟

UoM established the Islamic Center on its Kibana campus in 2014. The center was established to meet the needs of Muslim students, who make up around a third of all international students at UoM. The center is used for a range of cultural, educational, and research activities.

宮崎大学は2014年4月にキャンパス内にイ スラーム文化研究交流棟を設置しました。宮崎 大学の留学生のうち約1/3の学生はイスラム 圏の学生であり、これらの学生からの要望によ り、交流棟は設置されました。交流棟はイスラ ーム文化に関する文化、教育、研究活動に利用 されています。





International Dormitories / 留学生用宿舎

UoM has a system in place to provide accommodations for international students and researchers at the International Dormitory and Kibana Dormitory on the Kibana campus and the Kiyotake Dormitory on the Kiyotake campus. The accommodations include 121 singe rooms, 2 rooms for married couples, and 2 rooms for families, for a total of 125 units. Each dormitory unit is equipped with furniture and appliances so that students and researchers can focus on their studies right away.

宮崎大学では、外国人留学生・研究者等向けの 宿舎として木花キャンパスに国際交流宿舎と木 花ドミトリーを、清武キャンパスに清武ドミトリ ーを整備し、留学生等の受入体制を整えていま す。単身室121部屋、夫婦室2部屋、家族室2部屋 の3タイプ、全125部屋となっており、いずれの部 屋にも家具・家電が備え付けられ、すぐに勉強に 専念できるような環境となっています。



Kivotake Dormitory 清武ドミトリー



Kibana Dormitory 木花ドミトリー

$International\ Alumni\ Association\ /$ 留学生同窓会

Over the past 20 years, over a thousand exchange students have studied at the University of Miyazaki. Given this growing number, UoM recognized the need to create networks for alumni who have returned to their home countries. UoM has been strengthening these networks, including the creation of an alumni association in Taiwan in June 2014, one in Indonesia in October of the same year, one in Vietnam in October 2016 and one in Myanmar in January 2020.

宮崎大学では、過去20年間で1000人以上の留学生を受け入れてき ました。彼らは、母国に帰国した後、要職について活躍するケースも多 く、卒業した留学生のネットワークを強化していくことも重要となり ます。そこで、2014年6月に台湾で、同10月にはインドネシアで、2016 年10月にベトナムで、2020年1月にはミャンマーで留学生同窓会を設 立し、海外ネットワークの強化を図っています。









Guide for International Students at UoM / 宮崎大学への留学案内

UoM has entered academic exchange agreements with more than 100 institutions around the world. In collaboration with partner institutions, UoM engages in international research and educational activities. Currently, 156 international students from 24 countries are enrolled at UoM (as of October 1, 2022).

宮崎大学は、世界の約100校以上の大学と学術交流協定を結び、学生交流や研究教育に関する協力や交流を行っています。また、世界24ヶ国、156名の留学生(2022.10.1現在)が本学で学んでいます。





For further information about studying at UoM, please contact us via e-mail at: 留学についてのお問い合わせは

ryugaku@of.miyazaki-u.ac.jp

Student Categories and Admissions / 学生の区分と入学手続き

At UoM, students who are registered in a faculty or graduate school are regarded as regular students. Other students outside these groups who wish to further their education can also be categorized as research students or auditors.

Most classes are conducted in Japanese, so it is preferable to learn Japanese to a satisfactory level before enrolling.

日本において大学の教育・研究の基本組織は学部及び大学院です。

学部及び大学院に在籍する学生を本学では正規生と称していますが、この他にも研究生、科目等履修生等の制度を設け、学問を志す人々のために便宜をはかっています。

本学の授業の大部分が日本語で行われるため、入学前に日本語を習得しておくことが望ましいです。

*For more details on the Examination for Japanese University Admission for International Students (EJU), please visit the Japan Student Services Organization's (JASSO) website: 日本留学試験の詳細は、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)のホームページ等にて確認してください。

http://www.jasso.go.jp/en/index.html

*For more details on Japanese Language Proficiency Test (JLPT), please visit the Japan Educational Exchanges and Services' (JEES) website:

日本語能力試験の詳細は、財団法人日本国際教育支援協会(JEES)のホームページ等にて確認してください。

http://www.jlpt.jp/e/index.html

Undergraduate Students

Enroll in the university faculty. 大学の学部に入学する学生

Period of enrollment 在学期間	4 years Note: 6 years required for Faculty of Medicine and for Veterinary Medicine, Faculty of Agriculture. 4年 ※医学部、農学部獣医学科は6年
Qualifications 出願資格	Completed 12 years of education outside of Japan 外国において12年間の学校教育を修了した者。
Procedures 出願方法	1. Take EJU (Examination for Japanese University Admission for International Students) held by Jasso (The Japan Student Services Organization) in June or November. 独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」(6月と11月のいずれか)を受験する。
	2. Pass the Special Selection for Privately Financed Overseas Students at UoM in February. 宮崎大学が実施する「私費外国人留学生入試」(2月)を受験する。

Conduct research under the guidance of an adviser and seek a Master's degree or a Doctorate degree.

特定のテーマについて、指導教員の指導を受けて研究し、「修士」または「博士」の学位取得を目指す大学院生

Period of enrollment 在学期間	2 years (Master's course), 3 years (Doctoral course) Note: 4 years required for Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Veterinary Medicine. 修士課程2年、博士課程3年 ※医学獣医学総合研究科は4年
Procedures 出願方法	Master's course: Completed 16 years of education outside of Japan. Doctorate course: Completed 18 years of education outside of Japan. *Application qualifications, method and entrance examination schedule will differ according to graduate course. *Required documents are curriculum vitae, research proposal, and financial statement. 外国において、16年(修士課程)又は18年(博士課程)の学校教育を修了した者。 ※出願資格、方法及び時期については、研究科により異なります。 ※出願には、履歴書、研究計画書、成績証明書、経費支弁能力証明書などが必要です。

Postgraduate Research Students

Participate in research work in a specific field under the guidance of an adviser; degree and credits are not awarded.

特定のテーマについて、指導教員の指導を受けて研究する学生

Period of enrollment 在学期間	1 month to 1 year 1月~1年間 ※学位取得及び単位取得を目的としない。
Qualifications	A bachelor's degree or an equivalent qualification. *Application qualifications and method will differ according to faculty or graduate course. *Required documents are curriculum vitae, research proposal, and financial statement.
出願資格	大学を卒業した者、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者。 ※出願資格、方法及び時期については、学部により異なります。 ※出願には、履歴書、研究計画書、成績証明書、経費支弁能力証明書などが必要です。

Auditors 科目等履修生

Part-time students who choose to attend some classes. いくつかの授業科目を選んで受けるパートタイムの学生

Period of enrollment	One semester or two semesters (one year). *Required documents are curriculum vitae, research proposal, and financial statement. **Postgraduate research students and auditors must participate in a minimum of 10 hours per week of classes or research.
聴講期間	前期・後期もしくは1年間 ※出願には、履歴書、研究計画書、成績証明書、経費支弁能力証明書などが必要です。 ※※研究生・科目等履修生は、週10時間以上研究または聴講することになっています。

Tuition & Fees 授業料

	Examination Fee	Entrance Fee	Tuition
Undergraduate Students 学部生	17,000 yen	282,000 yen	267,900 yen (each semester)
Undergraduate Students 子即主	17,000 yell	202,000 yen	535,800 yen (yearly)
Graduate School Students 大学院生	30,000 yen	282,000 yen	267,900 yen (each semester)
Graduate School Students 大字院主	30,000 yen	202,000 yen	535,800 yen (yearly)
Postgraduate Research Students 研究生	9,800 yen	84,600 yen	29,700 yen (one month)
Auditors 科目等履修生	9,800 yen	28,200 yen	14,800 yen (for one credit)

^{*}All fees are subject to change.

Study and Funding / 日本留学の種類

There are four different ways for international students to study in Japan, depending on the type of funding they receive and the length of their study. 日本への留学には、以下の4つの形があり、それぞれ留学経費の手当の仕方や期間が異なります。

Japanese government-funded 国費外国人留学生	Students who are selected by either the embassy or their home university to receive scholarships and flight expenses from the Japanese government. 大使館または大学推薦により選考され、日本政府から奨学金や渡航費等の援助をうける留学生。
Overseas government-funded	Students who receive study expenses from the Malaysian, Indonesian, or other governments to train at Japanese Language schools or universities.
外国政府派遣留学生	マレーシア・インドネシアなど各政府の留学経費の負担により、日本語等の予備教育機関及び大学等に受け入れられた留学生。
Exchange students	Students at universities with which UoM has an exchange agreement can study for a semester or more, within one year in principle, and obtain credits at UoM. The aim is not to obtain a degree but to experience campus life, language, and culture in Japan.
短期留学生(交換留学生)	主に大学間交流協定等に基づいて母国の大学に在籍し、学位取得を目的とせず、日本の大学等における学習、異文化体験、語学の習得などを目的として、概ね1学年以内の1学期又は複数学期、日本の大学等で教育を受けて単位を修得し、又は研究指導を受ける留学生。
Privately funded 私費留学生	All other international students 上記以外の留学生。

Short-term Student Exchange Program / 短期研修プログラムによる学生相互交流

Student Exchange Program (1): university level 学生相互交流①:大学間交流協定校

UoM runs a one- to two-week course in Miyazaki for students of Vietnam National University of Agriculture in Vietnam, Nanjing Agricultural University in China, Infrastructure University Kuala Lumpur, and other universities.

宮崎大学では、大学間交流協定校であるベトナムのベトナム国立農業大学、中国の南京農業大学、マレーシアのインフラストラクチャー大学クアラルンプール等との間で1~2週間程度のプログラムによる学生交流を実施しています。

Student Exchange Program (2): faculty level

学生相互交流②:部局間交流協定校

Faculty of Medicine at UoM conducts a short-term exchange program for medical and nursing students with Prince of Songkla University in Thailand, Shanghai Jiao Tong University School of Medicine and Wenzhou Medical University in China, National Cheng Kung University in Taiwan, University of Ljubljana in Slovenia and University of Cagliari in Italy.

宮崎大学医学部とプリンス・オブ・ソンクラ大学(タイ)、上海交通大学医学院、温州医科大学(中国)、国立成功大学医学院(台湾)、リュブリャナ大学 (スロベニア)、並びにカリアリ大学(イタリア)との間で、医学科、看護学科の学生を対象とした短期研修プログラムを実施しています。

Summer Program サマープログラム

UoM offers a three-week summer program for international students. The program includes four types of classes: (1) Japanese language, (2) Japanese culture, (3) Japanese seminar, and (4) laboratory research.

宮崎大学は外国人留学生を 対象に3週間のサマープログ ラムを提供しており、ここで は、(1)日本語、(2)日本文化、 (3)日本語演習、(4)ラボ・リサ ーチの4つのクラスを開講し ています。





- 1. The Japanese language class is designed for beginner-level students of Japanese.
- 1 日本語クラスは、ビギナー向けの日本語を学ぶクラスです。
- 2. The Japanese culture class provides students with an opportunity to gain an understanding of Japan through such first-hand experiences as visits to historical sites, participation in community festivals, tea ceremony, flower arrangement, and even a weekend homestav.
- ② 日本文化クラスは、茶道や華道などの日本の伝統的な文化体験や地 域の祭りへの参加、遺跡の見学や週末のホームステイなどを通し て、日本を理解するためのクラスです。
- 3. The Japanese seminar course allows students to proactively learn about Japanese language and culture.
- ③日本語演習クラスは、日本語・日本文化を主体的に学ぶクラスです。
- 4. In the laboratory research class, undergraduate students wishing to advance to the ④ ラボ・リサーチクラスは、大学院を希望する学部生等を対象に、本学 postgraduate level receive small-group lectures from the university's postgraduate teaching staff and gain laboratory experience. The lab classes are conducted primarily in English. The topics are adapted to each participant's research interests. For more details on course content, please visit the university website:
 - の研究科の教員から少人数での講義を受け、ラボラトリーの体験を するクラスです。クラスは主に英語で実施され、各研究分野の教員 が希望者に応じて開講する形をとっています。(開講されるコース 内容は、本学ホームページで確認して下さい。)

Winter Program

ウィンタープログラム

UoM provides a two-week winter program for international students with courses on Japanese language and culture. The program includes a weekend farm-stay in the countryside and other field trips, as well as many hands-on activities to learn more about Japanese culture.

宮崎大学は外国人留学生を対象に、2週間のウ ィンタープログラムを提供しており、日本語・日 本文化の授業を開講しています。週末には農村民 泊体験など、日本文化を理解するための体験プロ グラムが多く組まれています。





Campus Life-Support for International Students / キャンパスライフ〜留学生支援〜

Scholarships

The following scholarships are provided for international students studying at UoM:

本学の留学生が受給している主な奨学金は次のとおりです。

Japanese government scholarships, Honors Scholarship for Privately Financed Students, Rotary Yoneyama Memorial Foundation Scholarship, Konan Asia International Foundation Scholarship, Heiwa Nakajima Foundation Scholarship, JGC-S Scholarship Foundation Scholarship, Kawashima Shoji Commemorative Scholarship

文部科学省奨学金、私費留学生学習奨励費、ロータリー米山記念奨学会奨学 金、興南アジア国際奨学財団奨学金、平和中島奨学金、日揮・実吉奨学会奨学 金、川嶋章司記念スカラーシップ基金等

授業料免除

An international student enrolled as a regular student at UoM who has an excellent academic record but finds it difficult to pay tuition due to unavoidable circumstances may apply for an exemption. If selected, he or she may be provided a tuition discount of 100,000 yen or 200,000 yen or a full tuition exemption for the semester in question (this system does not apply to research students or auditors).

本学に入学後、学業成績が優秀で、かつやむを得ない理由によって 授業料の支払いが困難な者については、出願があれば選考のうえ、そ の学期の授業料のうち10万円、20万円又は全額を免除することがあ ります。(研究生・科目等履修生は免除の対象外です。)

Medical Support

医療補助

Students who have had an accident or suffer from illness can receive treatment equivalent to hospital care from doctors, counselors, and nursing staff at the Health Care and Safety Center on campus.

Students who receive medical treatment in a hospital in Japan for illness or injury will be charged 30% of the medical fee (provided the student joins the National Health Insurance).

学生のけがや病気については、学内にある安全衛生保健センターにて、医師、カウンセラー、看護師によって、病院と同様の診断・治療をうけることができます。

病院で受診する場合の個人負担は医療費の30%です。(ただし、国民健康保険に加入していることが条件です。)

Classes in Japanese Language and Culture in Japan 日本語・日本事情クラス

UoM also offers a range of courses in both semesters on Japanese language and society, as well as courses offering internship experiences. 学生のレベルや目的に応じて、各学期に日本語授業と日本事情のクラスを開講しています。また、インターンシップを体験できる授業も行っています。

Tutor System チューター制度

Some Japanese students at UoM are selected to act as tutors and offer their support to new international students by helping them with Japanese language study and adjustment to daily life.

本学の日本人学生から選ばれたチューターが、来日した留学生に対して、日本語や日本での生活をサポートします。



Student Residence and Housing Compensation System

宿舎および住宅補償制度

UoM provides accommodation for international students at the International House and Dormitories.

It is also possible for international students to live in municipal housing or private apartments close to campus, in which case they can subscribe to the Comprehensive Renters Insurance for Foreign Students Studying in Japan that aims at protecting students and reducing the burden on the guarantor.

宮崎大学では留学生に対して 寮を提供しています。

また、大学近くの県営および市営住宅、または民間アパートへの入居も可能です。この場合、万一の災害に対する備えと保証人の負担軽減をする必要があるため、「留学生住宅総合補償制度」に加入していだだきます。



		e of Roc 屋の種類	Monthly Rent 寄宿料	
International House 国際交流宿舎	Single R	ooms	単身用	4,700 yen
	Couples' Rooms 夫		夫婦用	9,500 yen
	Family R	ooms	家族用	14,200 yen
Kibana Dormitory		木花ドミ	ミトリー	24,000 yen
Kiyotake Dormitory		清武ドミ	ミトリー	25,800 yen

Cooperation with various international exchange organizations

各種国際交流団体との協力



UoM provides support and guidance to the Miyazaki University Foreign Students Association (MUFSA) in an advisory capacity. In addition, we cooperate with other international exchange organizations off campus to promote the welfare of international students in Miyazaki and contribute to international understanding in the region as a whole, offering activities such as visits to schools or Japanese families, etc.

宮崎大学では「外国人学生会(MUFSA)」の活動をサポートしています。

また、学外の国際交流活動を行う団体と協力して、地域における留学生支援を促進するとともに、地域社会の国際理解に貢献しています。(学校訪問、ホームビジット等)

Living Expenses

生活費

The table to the right shows typical monthly living expenses for an international student living in university dormitory. Living in an apartment may increase monthly expenditures by 25,000 to 45,000 yen.

大学の寮で暮らす留学生の1ヶ月の生活費の例です。アパートに住むと25,000~45,000円ほど支出が高くなります。

Inc	Income 収入 Expenditures 支出			
Allowance	仕送り	40,000 yen	Lodging (Including expenses for electricity, fuel, and water) 寄宿寮(光熱水費を含む)	24,000 yen
Part-time job	アルバイト	32,000 yen	Meals	20,000 yen
			Mobile phone 携帯電話代	7,000 yen
			Convenience goods 生活雑費	4,000 yen
			Educational materials 教材費	5,000 yen
			Entertainment 娯楽費	10,000 yen
			National Health Insurance 国民健康保険	2,000 yen
Total	計	72,000 yen	Total ==	72,000 yen

Message for Prospective Students 留学をお考えの皆様へ



 $oldsymbol{A} oldsymbol{n}$ is $oldsymbol{F} oldsymbol{a} oldsymbol{r} oldsymbol{h}$ Faculty of Engineering



I learned many new things at the University of Miyazaki. I am appreciative of the many nice and supportive professors and staff. They have been a huge assistance to me in resolving many issues related to my education and daily living in Miyazaki. Even though I have a lot of trouble communicating in Japanese, everyone here is really friendly to visitors.

Since I am Muslim, it is quite simple for me because there are also some halal foods in the cafeteria and halal groceries in the nearby supermarket. The facilities are also very convenient and comfortable.

I decided to live in Miyazaki because of the tranquil environment away from the busy city life. The area surrounding Miyazaki has a lot of interesting places to visit. I adore the outdoors because the greenery and gorgeous blue seas are so soothing and relaxing. I realized that choosing to study here was a wise decision.



Biswas Rasaily Graduate School of Education



I am a Teacher Training Student at the University of Miyazaki. My training course is for 1 year and it was the most meaning year of my life.

The serene environment in which the University is located makes the place most suitable for a person to pursue his studies. The university has all the required facilities for all the field including scientific, medical, agriculture, education, and technology. Some of the most learned Professors with years of experiences in their field are in the University who are ready to teach you in a humblest way possible.

Miyazaki has numerous tourist spots around mountains and along the sea. The beautiful cherry blossom in the Spring and charming red creamy color of Japanese Maple trees makes some places perfect to visit with your friends and family. I have been to almost all of it and I found out that those are one of the most amazing places I have ever visited in my life. I got the experiences of city life as well as the life of countryside which I feel is perfectly balanced in this area.

I would like to thank the University of Miyazaki whole heartedly for accepting me and providing me with a beautiful opportunity to be here with you all.



Fidya Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Veterinary Medicine



Taking doctoral studies in Japan has been my dream for a long time. I want to develop myself from the experience of studying abroad, especially in Japan. I am amazed by the progress of education and knowledge in Japan and want to learn about it. I am interested in Japanese culture, history, and language, so I feel fortunate to have the opportunity to study in this country, especially at the University of Miyazaki (UoM). UoM is one of Japan's public universities that offer a chance to build my research credentials. I intend to learn new things and benefit from my experience as a UoM student. The expert lecturer, helpful staff, pleasant atmosphere, and excellent facilities support my study well. The expertise, skill, attitude, and knowledge I obtain during my

research at UoM will benefit me greatly in achieving my future success in delivering significant contributions to medical science innovation and usefulness for human beings. Miyazaki is also one of the warmful prefectures in Japan. The fantastic atmosphere support daily life as a student. We also can enjoy the beautiful natural scenery of Japan here. Miyazaki's people's kindness also makes a comfortable life and motivates the study.



Asmaa Answer Mahmoud Hegazy Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Veterinary Medicine

I am a second year PhD student in veterinary pathology department at the University of Miyazaki (UoM). University of Miyazaki is a good environment for studying where it has great facilities, very knowledgeable and supportive professors, plus my laboratory colleagues are also very friendly and helpful. During my first year of study, I learned a lot as the laboratory is very active and receives many cases for diagnosis, which gives students experience in their field of study.

As a Muslim, I can live in complete freedom without any restrictions on my faith and religion. I also can find halal food easily. Now, I enjoy my life with new friends from different countries and create some great

intercultural exchange.

The student support office always kindly guides, helps us and provides us with all the required information in various aspects of life.

Let's talk about the city itself. Miyazaki is also a great place to live in. It is a safe, cheapest in living costs and uncrowded city, I would like to describe it as the calmest city. Miyazaki also has very beautiful nature, where you can see both mountains, and the ocean surrounding it.



Liang Weiting Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Veterinary Medicine



The University of Miyazaki (UoM) contains the most improved equipment and rigorous scientific attitude. Not even mention that this is the school with the most human touch. As soon as we arrived, we got our adventure in the special period of COVID-19. Thankfully, UoM personnel assisted us about everything in quarantine hotel and even prepared gifts for each of us. The UoM extended the biggest welcome to every incoming student and exhibition the famous school's responsibility. That was an unforgettable experience for me.

At UoM, you can experience both a challenging academic atmosphere and an easygoing social culture. In faculty of medicine and veterinarian medicine the laboratories are contemporary and well-equipped which you

can fully enjoy the beauty of science. Now it is my 2 years of PhD program, my professor and teachers are very patiently and attentively which I am eternally grateful. We communicate with each other and I harvest knowledges so much more than books. Meanwhile, the No-academic staff members at UoM are always care about us and devote themselves to guarantee that we have the happiness lives in

In outdoor the fresh air and beautiful view are always in my mind and eyes. The Aoshima has the delicious ice cream, while in the Takachiho you can see the history stone and colorful fish. To speak of lucky the Udo Jingu nearby cliff can blessing for wish. Miyazaki is place with tales of legendries.

Now it's your new chapter to decide. Why don't you start your own adventure in UoM.



Mungkornpan Santiwijai Guraduate School of Agriculture



I have been studying at University of Miyazaki (UOM) for 2 years since my undergraduate. I am a master's student 1st year and I am enjoying my university life here.

University of Miyazaki (UOM) will offer you a great opportunity to access academic knowledge and society. People, especially staff members, here are amiable and easy to communicate with. I have done many things not only study but also travel, club activities, play some sports, culture learning, and work a part-time

Miyazaki is a great prefecture to travel to, there are many places to go. Here is a very beautiful and peaceful place for me. I strongly suggest you travel here at least once a time in your life. I gained experience more than I expected here and I am very grateful.



$oldsymbol{Alemshet}$ Bekele Tadesse Interdisciplinary Graduate School of Agriculture and Engineering

Ethiopia



It is a great honor that the University of Miyazaki gave me this opportunity to write a message for prospective students. You know Japan is one of the most well-developed countries in the world, and it is my dream come true to study in Japan. I am very excited about the possibility of exploring Japanese culture, state-of-the-art technological developments, and their continuum aspirations for positive change. Japan is quite an excellent place to have a versatile broad facility in different disciplines. Studying at the University of Miyazaki will allow you to work with high-caliber professors and get strong personal guidance to build and maximize a rewarding, enjoyable research career and increase your chances of future success. At UOM, I have

developed the personal presentation skills required to improve visibility in the research community. The University of Miyazaki provides interdisciplinary courses to postgraduate students that suit the real-world scenario, and I enjoyed it and got lots of lessons. The university staff members are helpful in any inquiry you have and difficulties. In particular, Miyazaki city is a tranquil place, peaceful, with beautiful landscapes and coastal recreational places. You will love and enjoy life at UoM and Miyazaki city. Finally, if you are interested in a well-designed and well-organized curriculum, I encourage you to join UoM for your future endeavors and success.



Kim Meereu Faculty of Regional Innovation

Republic of Korea



"Look at the World, Start with the Community". As you can know from the catchphrase, University of Miyazaki offers a number of programs to help the students and the community build a future together in solidarity.

Studying abroad is not just for learning academics. The true meaning of studying abroad is truly into the daily life of a foreign country, experiencing their culture, and broadening horizons by live with the community. Also, if I could help them with my skills and knowledge, there will be no more rewarding experience than it.

Wouldn't you like to study with the community and use your talents to help the local people? If so, we are

waiting for you in University of Miyazaki.



Number of Staff

(As of May 1, 2022)

President	Auditors	Executive Directors	Professors	Associate Professors		Assistant Professors	Research Associates	School Teachers	Administrative Staff	Total
1	2	7	205	186	68	235	4	64	1,475	2,247

Number of Students —

Undergraduate

(As of May 1, 2022)

Faculties	Enrollme	Current Enrollment		
racullies	New Students	Total	Current Emoninent	
Education & Culture			1	
Education	120	480	523	
Medicine	160	840	924	
Engineering	370	1,480	1,539	
Agriculture	285	1,200	1,276	
Regional Innovation	90	360	378	
Total	1,025	4,360	4,641	

Graduate (As of May 1, 2022)

		Enrollme	ent Limit	Current Enrollment			
Graduate Schools	Master's Course		Doctoral Course		Master's	Doctoral	Tatal
	New Students	Total	New Students	Total	Course	Course	Total
Education					3		3
Medicine and Nursing Science*	10	20			30	1	31
Engineering	134	268			311		311
Agriculture	68	136			155		155
Regional Innovation	5	10			14		14
Medicine and Veterinary Medicine**	10	20	23	92	25	150	175
Agriculture and Engineering***			16	48		86	86
Total	227	454	39	140	538	237	775

^{*}Graduate school of Medicine, Medical Science and Nursing Science, Nursing science
***Interdisciplinary Graduate School of Agriculture and Engineering

Fees

Category	Entrance Examination Fee	Admission Fee	Tuition Fee				
Undergraduate Students	17,000 yen	282,000 yen	(each semester) 267,900 yen				
Ondergraduate Students	17,000 yen	282,000 yen	535,800 yen yearly				
Graduate School Students	20 000 yen	202 000 von	(each semester) 267,900 yen				
Graduate School Students	30,000 yen	282,000 yen	535,800 yen yearly				

Number of Graduate Students -

Undergraduate Students (As of May 31, 2022)

Faculties	Total
Education (Education & Culture)	16,614
Medicine	5,370
Engineering	16,157
Agriculture	16,385
Regional Innovation	278
Total	54,804

Graduate Students

(As of May 31, 2022)

Graduate Schools	Master's Course	Doctoral Course	Total
Education	584		584
Medicine and Nursing Science*	248	443	691
Engineering	1,858	2,112	3,970
Agriculture	2,431		2,431
Regional Innovation	5		5
Medicine and Veterinary Medicine**	74	189	263
Agriculture and Engineering***		214	214
Total	5,200	2,958	8,158

^{*}Graduate school of Medicine, Medical Science and Nursing Science, Nursing science

^{**}Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Veterinary Medicine

^{**}Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Veterinary Medicine

^{***}Interdisciplinary Graduate School of Agriculture and Engineering

UoM Exchange Students at Partner University (online2021) -

Institution	Country / Region	Sent in 2021
University of Ljubljana	Slovenia	4
Indiana University of Pennsylvania (Online)	U.S.A.	3
Kyungpook National University (Online)	Korea	3
Busan University of Foreign Studies (Online)	Korea	2
Da-Yeh University (Online)	Taiwan	6
Soochow University (Online)	Taiwan	5
Total		23





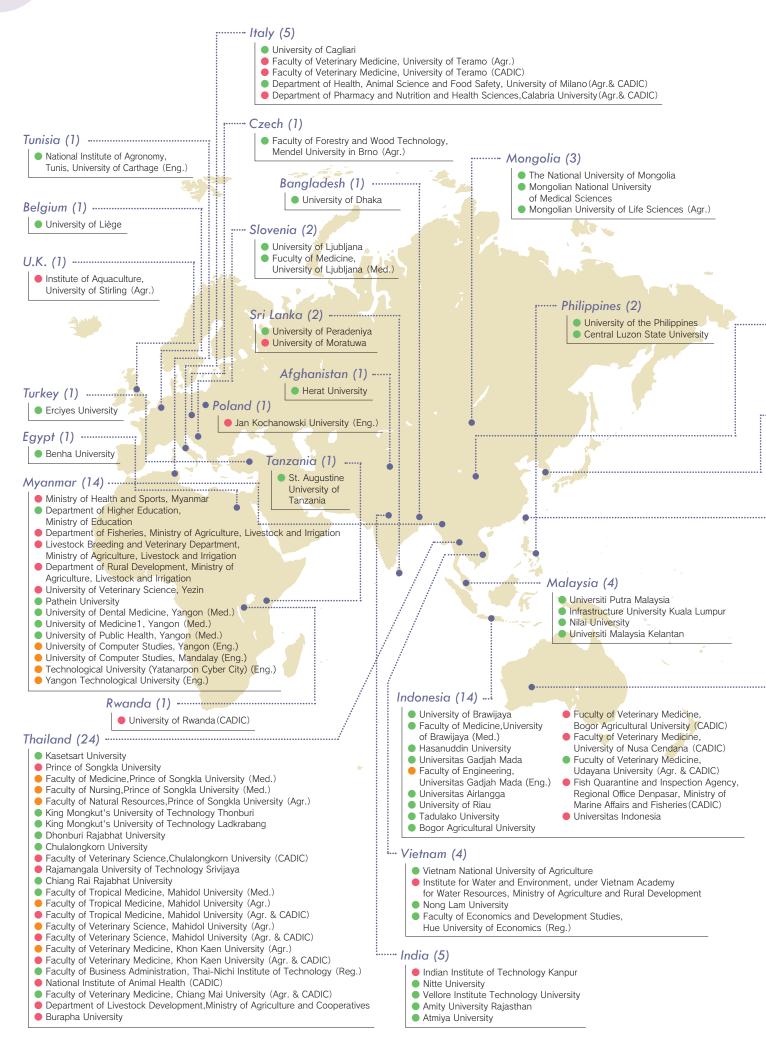


Number of International Students —

(As of May 1, 2022)

(As of October 1, 2022)

		Cou	ırses				Fa	ıculti	es			Fir	nanc				Cou	rses				Fa	culti	es				nanc		
Country / Region	Undergraduate	Master's Course	Doctoral Course	Other	Education	Medicine	Engineering	Agriculture	Regional Innovation	Medicine & Veterinary Medicine	Agriculture & Engineering			Foreign Government	Total	Undergraduate	Master's Course	Doctoral Course	Other	Education	Medicine	Engineering	Agriculture	Regional Innovation	Medicine & Veterinary Medicine	Agriculture & Engineering	Japanese Government		Foreign Government	Total
Afghanistan	1	1	4				1	1		3	1	2	4		6	1	1	3				1	1		2	1	1	4		5
India															0			2							2		2			2
Indonesia		3	13				2	1		5	8	2	14		16		2	15	1			1	2		8	7	5	13		18
Egypt			4							4			1	3	4			4							4			1	3	4
Ethiopia			1								1		1		1			1								1		1		1
Guatemala			1								1	1			1			1								1	1			1
Syrian Arab Repubric		1						1					1		1															0
Sri Lanka			2								2	1	1		2			2								2	1	1		2
Thailand	22	10	8					32		5	3	2	38		40	22	11	6	2	1			32		5	3	1	40		41
Tanzania			1								1		1		1		1								1		1			1
Nicaragua															0				1				1				1			1
Pakistan			1								1	1			1			1	1						1	1	1	1		2
Bangladesh				1			1					1			1		1	1				1			1		2			2
Papua New Guinea															0				1				1				1			1
Vietnum		1								1			1		1		1								1			1		1
Bhutan				1	1							1			1				1	1							1			1
Brazil															0				1					1				1		1
Malawi			1								1	1			1			1								1	1			1
Malaysia	6	1	1				6	1			1		4	4	8	6	1	1				6	1			1		4	4	8
Myanmar	1	9	7		1		8	1		2	5	4	13		17	1	9	6	1			10	1		2	4	3	14		17
Mongolia	1						1						1		1	1		1				1			1		1	1		2
Rwanda			1							1		1			1			1							1		1			1
Korea	6		4		1		1	3	1	1	3	1	9		10	11		4		3		1	3	4	1	3		15		15
Taiwan	1		1		1						1		2		2	4		1		3				1		1		5		5
China	7	6	11	1	2		6	3	2	8	4		25		25	5	6	11	1	1		5	3	2	8	4		23		23
TOTAL(25)	45	32	61	3	6	0	26	43	3	30	33	18	116	7	141	51	33	62	10	9	0	26	45	8	38	30	24	125	7	156



— Academic Exchange Agreement —

UoM has concluded an Academic Exchange Agreement with 132 institutions, in 31 countries and regions, as indicated below.

The Academic Exchange Agreement encourages the following activities:

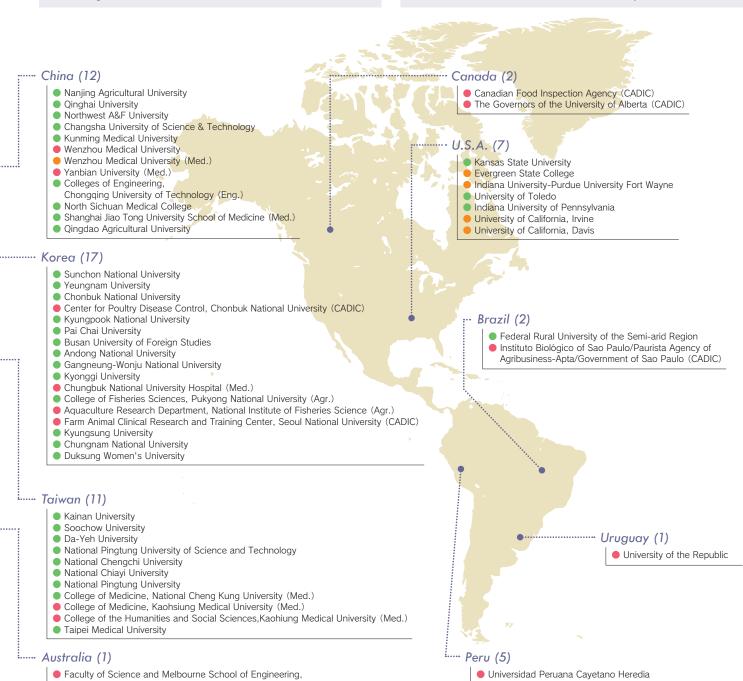
- 1. Exchange of researchers and other research staff
- 2. Conducting collaborative research projects and organizing symposia
- 3. Exchange of research data and materials
- 4. Exchange of students

— Student Exchange Memorandum –

UoM has concluded a Student Exchange Memorandum with 105 institutions, in 26 countries and regions, as indicated below.

Generally speaking, the Student Exchange Memorandum includes the following content:

- 1. Duration of stay
- 2. Number of exchange students
- Exemption from the payment of the entrance examination fee, admission fee, and tuition of the host university



Abbreviation

Academic Exchange Agreement

University of Melbourne (Eng.)

- Student Exchange Memorandum
- Academic Exchange Agreement & Student Exchange Memorandum
- Agr. (Faculty of Agriculture)
- Eng. (Faculty of Engineering)
- Med. (Faculty of Medicine)
- Reg. (Faculty of Regional Innovation)
 CADIC (Center for Animal Disease Control)

Faculty of Medicine,

National University of San MarcosUniversidad Nacional Agraria La Molina

Universidad Peruana Cayetano Heredia (Med.)
 The Institute of Tropical Medicine "Alexander von Humboldt" of the Universidad Peruana Cayetano Heredia (Med.)

	9	7
	7	-
		h
	2	۲
-	7	-
	(ر
	1	
	5	₹
	(J
		h
	č	ĭ
	7	7
	Q	υ
6	7	
1		
ŧ.	ă.	
	7	Ξ
	C	כ
)
		כ
		נ
		7
		りして
	0000)
	00000)
	00000)
	7 07279)
	7000	
	7000	
	7000	

)										(April	1, 2021-	(April 1, 2021-March 31, 2022)	, 2022
	Educ	Education		ine	Medicine Engineering Agriculture) bi	Agriculture		Regional Innovation	Cente Interna Relat	Center for International Relations	Center Animal Di Contr	for sease l	Center for Center for Animal Disease Language and Control Cultural Studies	br ies	# T	Frontie	Frontier Science Research Center	Other	ler	Total	al
	Received	Sent	Received	Sent F	Received Sent Received Sent Received Sent Received Sent	nt Rec	seived Sent	Received		Sent Received Sent Received	Sent	Received	Sent R	Sent Received Sent Received Sent Received Sent Received	nt Rece	ived Sent	Received	Sent	Received	Sent	Received	Sent
Thailand												<u>-</u>	က									8
Bangladesh			1																			
China			<u></u>																			
Egypt			-									-										
U.K.		-																				
Slovenia				-																		
Total (55)	0	1	 С		0 0		0 0	0	0	0	0	2	8	0 0		0 0	0	0	0	0	2	8

Researchers above include those:
1. Funded by Foreign Government/Institutes
2. Funded by MEXT (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology), JSPS (Japan Society for the Promotion of Science), Japan Foundation, JASSO, (Japan Students Services Organization), JICA (Japan International Cooperation Agency) and other Japanese governmental agencies.
3. Based on the Academic Exchange Agreement with foreign institutes.
4. Self-supporting, etc.

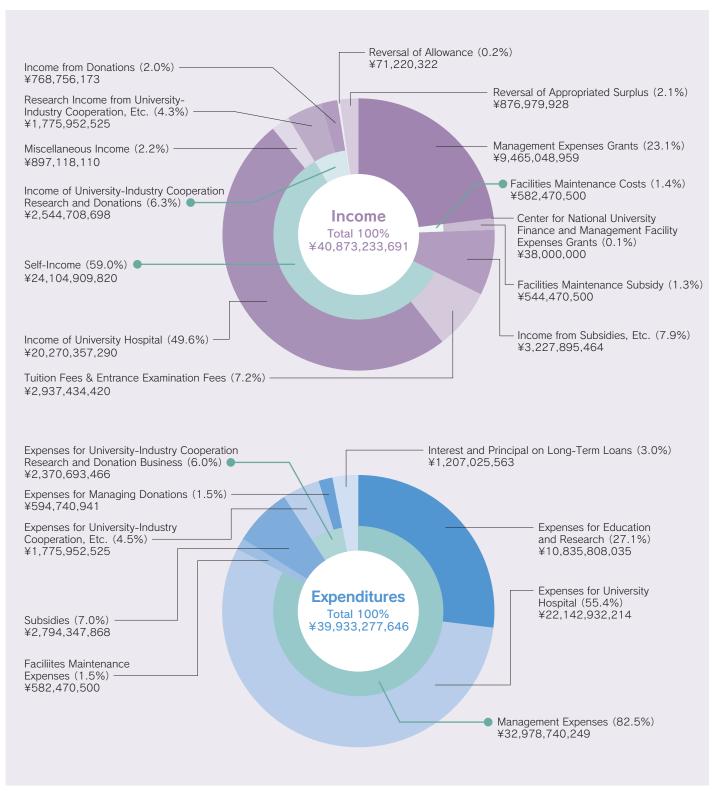
University Income / Expenditures

	Income	(yen)	
Management Expenses Grants		9,465,048,959	
	Center for National University Finance and Management Facility Expenses Grants	38,000,000	Management
Facilities Maintenance Costs	Facilities Maintance Subsidy	544,470,500	Faciliites Mair
	Grant from Ministry of Health, Labour and Welfare	0	Subsidies
Income from Subsidies, Etc.		3,227,895,464	Expenses for
	Tuition Fees & Entrance Examination Fees	2,937,434,420	Industry Coop Research and
31-0	Income of University Hospital	20,270,357,290	Business
self-income	Income of Property Disposal	0	Interest and P
	Miscellaneous Income	897,118,110	Total
Income of University-	Research Income from University-Industry Cooperation, Etc.	1,775,952,525	
Resarch and Donations	Income from Donations	768,756,173	
Reversal of Allowance		71,220,322	
Income of Long-Term Loans		0	
Reversal of Appropriated Surplus	2	876,979,928	
Total		40,873,233,691	

	Expenditures	(yen)
Management Expenses	Expenses for Education and Research	10,835,808,035
-	Expenses for University Hospital	22,142,932,214
Faciliites Maintenance Expenses	enses	582,470,500
Subsidies		2,794,347,868
Expenses for University- Industry Cooperation	Expenses for University- Industry Cooperation, Etc.	1,775,952,525
Research and Donation Business	Expenses for Managing Donations	594,740,941
Interest and Principal on Long-Term Loans	ong-Term Loans	1,207,025,563
Total		39,933,277,646

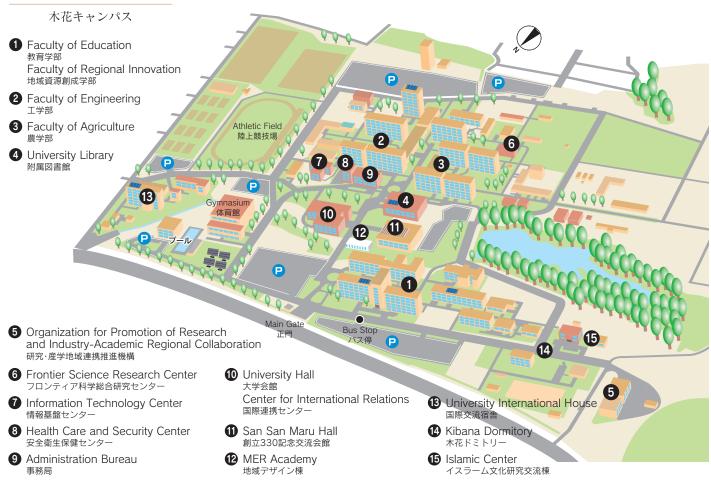
(FY2021)

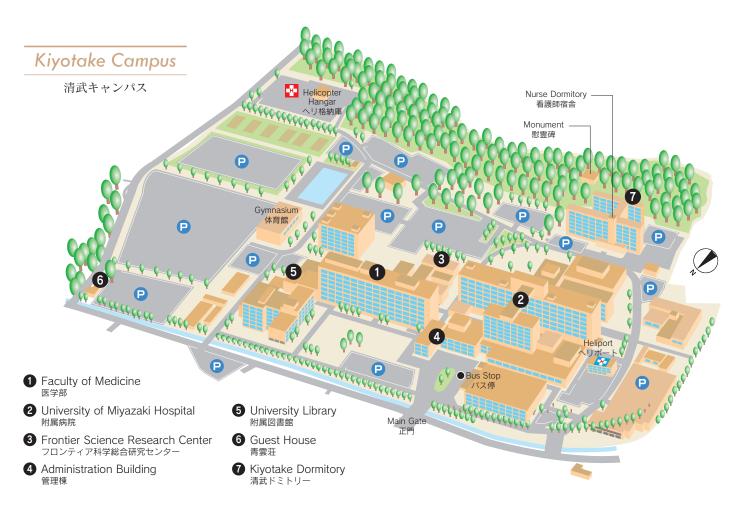
University Budget

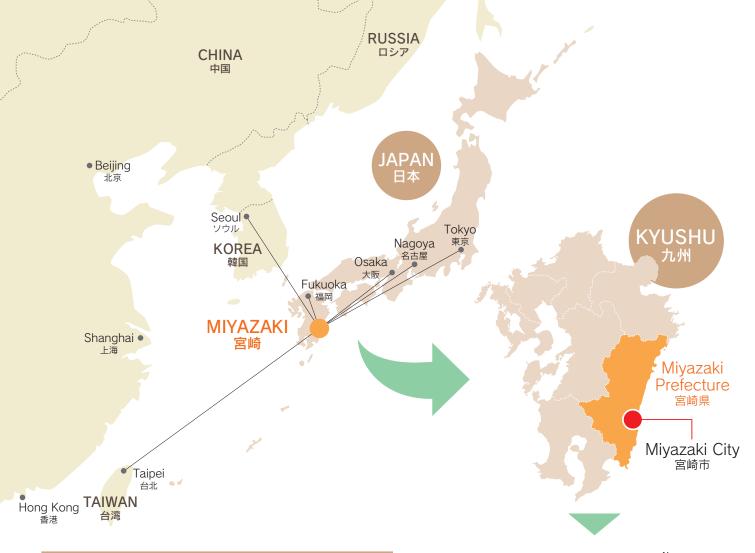


(FY2021)

Kibana Campus







Getting to Miyazaki / アクセス

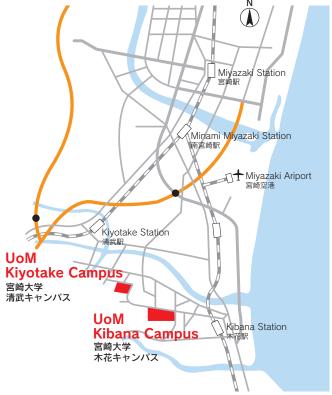
People traveling to Miyazaki from overseas often travel via Tokyo, Osaka, Nagoya, or Fukuoka, but there are direct flights to Miyazaki from South Korea and Taiwan.

Miyazaki Airport is about 15 minutes by car from either campus.

海外から宮崎へ来るには、まず東京、大阪、名古屋、福岡のいずれか に飛ぶことになります。仁川(インチョン)(韓国)、桃園(タオユァン) (台湾)から宮崎へは直行便があります。

宮崎空港から両キャンパスへは車で約15分です。

Tokyo 東京(羽田)	100 mins 100分		
Nagoya 名古屋(中部)	80 mins 80分		
Osaka 大阪(伊丹)	70 mins 70分		
Fukuoka 福岡	40 mins 40分	77	
Seoul ソウル	100 mins 100分		
Taipei 台北	130 mins 130分		



University of Miyazaki 宮崎大学

Address 1-1 Gakuen Kibanadai-nishi, Miyazaki 889-2192 JAPAN URL https://www.miyazaki-u.ac.jp/kokusai/english/ 〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地

Organization for Global Collaboration 国際連携機構

Tel +81-985-58-7104 Fax +81-985-58-7782 E-mail kokusai@of.miyazaki-u.ac.jp

Published by the Organization for Global Collaboration, March 2023

